

パラグアイ共和国  
アスンシオン市中央食品卸売市場改善  
計画巡回指導調査団報告書

昭和60年5月

国際協力事業団





パラグアイ共和国  
アスンシオン市中央食品卸売市場改善  
計画巡回指導調査団報告書

JICA LIBRARY



1028867E8J

昭和60年5月

国際協力事業団

国際協力事業団	
受入 月日 '86. 4. 30	708
登録No. 12604	295
	ADD

## 序 文

国際協力事業団は、パラグアイ共和国のアスンシオン市中央卸売市場への技術協力要請に基づき、昭和55年3月に事前調査団、昭和56年3月には技術協力打合せチームを派遣し、協力の枠組等の検討を重ね、昭和56年12月には、社団法人食品需給研究センター常務理事多田誠氏を団長とする実施協議調査団を派遣し、4年間にわたる技術協力を開始した。

今回派遣した巡回指導調査団は、協力期間が最終年次に入った事により、過去3年間にわたる業務実績をふまえた問題点の検討と、最終年次の業務実施計画の策定を目的とした。

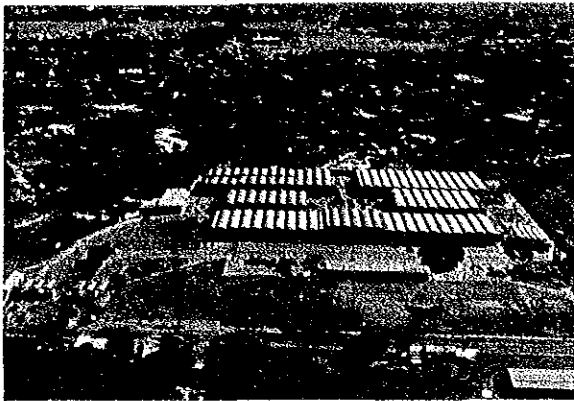
本報告書は、その結果についてとりまとめたものである。

おわりに、本調査の実施にあたり御協力をいただいた、外務省、農林水産省、社団法人食品需給研究センター関係各位に衷心より謝意を表するものである。

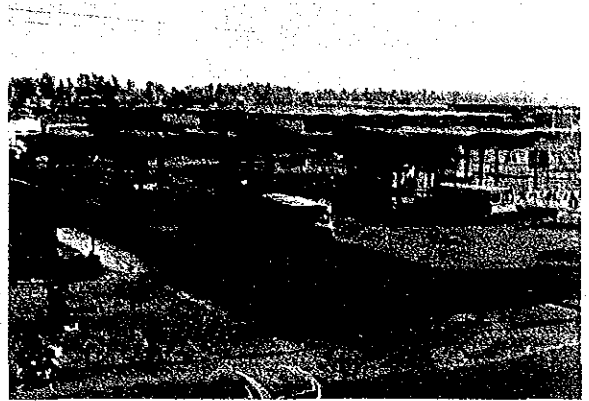
国際協力事業団

農業開発協力部長 田 内 堯

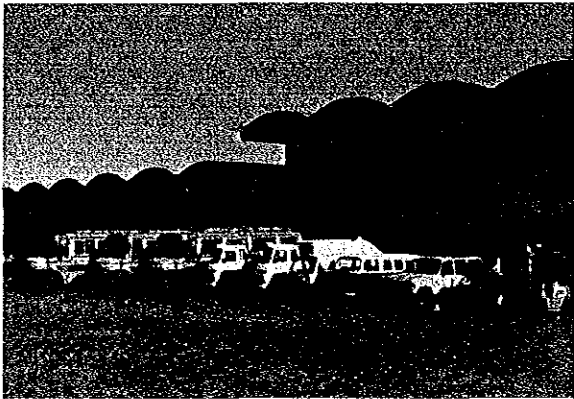




中央市場全景



市場入場口



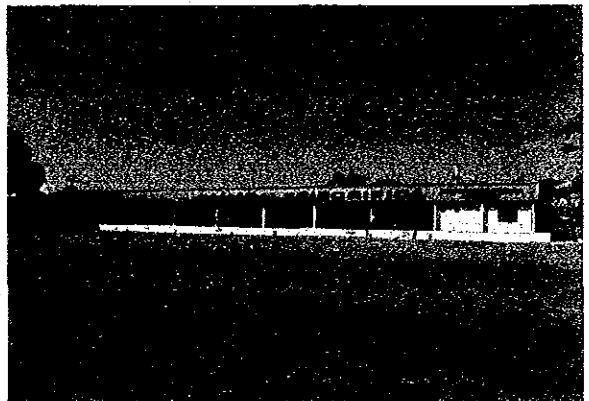
A棟及び供与機材



管理棟



専門家執務室



供与冷蔵庫







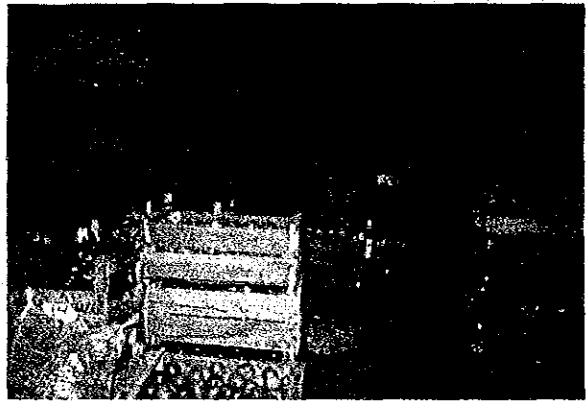
標準建値公示風景 A棟中央通路



建値算出作業 午前3時



建値書き込み作業 午前3時30分



卸売業者店舗A棟



キャッサバの卸売風景C棟

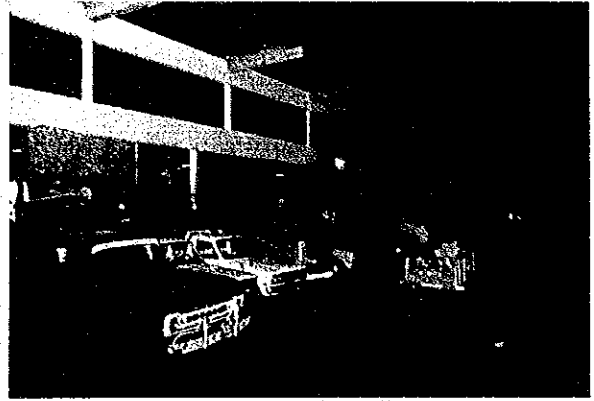


中央市場内小売市場C棟





卸売市場と小売市場間を運行する  
仕入れバス（3台を供与済）



深夜の搬入出風景 A棟裏側



深夜の搬入出風景 A棟裏側



公設小売野外市場



野菜売場



肉売場



# 目 次

I 巡回指導調査結果の概要	
1 調査の経緯	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査団派遣期間	1
(3) 調査団の構成	1
(4) 調査日程	1
2 調査結果の概要 —技術協力の現況と協力終了時迄の要点時項—	2
(1) 総 括	2
1) 調査の概要	2
2) 調査結果	2
(2) 過去3年間の技術協力の成果と課題	5
1) 技術協力の成果	5
2) 技術協力に於る今後の課題	10
II 技術協力の現状と課題	15
1 技術協力の実績比較検討表	15
2 技術指導分野別の問題点への対応方法	19
(1) 卸売市場の運営管理に必要な技術について	19
1) 市場の運営管理	19
① 施設管理	19
② 業者指導	20
2) 標準建値の意義と利用方法	21
3) 市場間の情報伝達	22
4) 品質管理のための技術	24
(補) 野外市場について	25
(2) 市場運営管理のための各種調査方法, 調査結果の利用	28
1) 物流調査(生産, 流通調査)	28
2) 消費者動向調査	28
(補) 卸売市場利用実態調査結果	29
3 供与機材の利用状況	37
III プロジェクト最終年の実施計画	43
1 昭和60年業務実施計画	43
2 専門家派遣計画	43

3	機材供与計画	44
4	カウンターパートの研修計画	44
5	エバリュエーション調査団の派遣	45
IV	資 料	46
1	団 長 書 簡	47
2	合同委員会議事録	61
3	市長表敬時相方代表者挨拶要旨	67
4	市場管理局長の合同委員会に於る主な発言	67

# I 巡回指導調査結果の概要

## 1 調査の経緯

### (1) 調査目的

今回の調査では、協力期間の最終年次に入るにあたり、過去3年間にわたる協力業務の実績を調査し、業務実施上の問題点を整理・検討する事及び最終年次の実施計画を策定することを目的とした。

### (2) 調査団派遣期間

昭和60年1月7日(月)から昭和60年1月20日(日)まで

### (3) 調査団の構成

団長	橋口次郎	国際協力事業団農業開発協力部農業開発課長
団員	芝崎希美夫	社団法人食品需給研究センター理事
団員	黒木弘盛	農林水産省経済局国際協力課係長
団員	江川敬三	国際協力事業団農業開発協力部農業開発課プロジェクト担当

### (4) 調査日程

月	日	曜	日 程
1	7	月	成田発 ( JL 064 ) 20:35
	8	火	リオデジャネイロ経由 アスンシオン着 ( RG 902 ) 15:00 着
	9	水	JICA支部打合せ ( 8:00 ) , 大使館表敬 ( 10:30 ) アスンシオン市長表敬 ( 10:30 ) , プロジェクト実施検討 ( 13:30~19:00 )
	10	木	日パ合同打合せ ( 8:00 ) , 第4公設市場視察 ( 9:30 ) スーパー経営者聴取調査 ( 10:30~12:00 ) 82年 83年 84年の実績評価 ( 14:00~18:00 ) ロベス管理局長宅夕食招待 ( 20:00 )
	11	金	日パ合同打合せ ( 82年~84年の実績について ) ( 8:00 ) 合同委員会資料検討 ( 15:00~18:00 )
	12	土	イグアスへ移動 ( 8:00 ) , JICA総合農試着 ( 13:30 ) 非日系野菜生産農家への聴取調査 ( 14:00~17:00 )
	13	日	イグアス → アスンシオン着
	14	月	日パ合同委員会 ( 8:30~12:00 ) 団長書簡作成作業 ( 13:30~18:00 ) , 大使館夕食会 ( 19:30 )
	15	火	野外市場の視察 ( 6:30~9:00 ) , 団長書簡作成作業 ( 9:00~16:00 )

月	日	曜	日 程
1	16	水	中央卸売市場夜間作業視察(3:00~7:00),
	17	木	JICA支部へ報告(9:00) 日パ合同委員会議事録署名・団長書簡手交(10:00) 大使館へ報告(11:00), アスンシオン発(RG 903)(16:15)
	18	金	ロスアンゼルス着(8:55) <span style="float:right">ロスアンゼルス泊</span>
	19	土	ロスアンゼルス発(JL 061)
	20	日	成田着(16:20)

## 2 調査結果の概要 —技術協力の現況と協力終了時迄の要点事項—

### (1) 総 括

#### 1) 調査の概要

本件調査団は、討議議事録に基づく協力期間が本年12月6日をもって終了する本協力の残り期間について効果的に所定の技術移転を行うため、1984年の実績を評価し、問題点の整理を行うとともに、1985年の事業実施計画を検討することを目的として、1985年1月7日から20日までパラグアイ国に派遣された。

本件調査団は、現地において日本人専門家及び「パ」側カウンターパートと数次に亘り卒直な意見交換を行い、プロジェクト所在地である中央卸売市場、アスンシオン市内公設小売市場、民営スーパーマーケット、公設小売野外市場、イグアス地域の野菜生産者において聞き取り調査を含む実態調査を実施した。

これらの調査結果は、同時に開催された合同委員会の議事録としてとりまとめられ、アスンシオン市長と同プロジェクトの清野リーダーの間で署名が行われた。また、より詳細な結果を団長書簡としてとりまとめ、アスンシオン市長あて提出した。

調査結果は、別途各団員がそれぞれ項目別に記述しているので、それによりたいが、以下に調査結果を概括することとする。

#### 2) 調査結果(総括)

##### ① 概 況

本件協力は、産業開発協力事業における、現在唯一の農林分野のプロジェクトであり、効果の発現を具体的に捉え難い協力である。しかしながら1984年になって計画による派遣予定専門家4名全員が揃ったこともあり、協力活動が一層活発となった。その結果として現在まで進めてきた指導項目別の各種資料等がつきつぎに提出されることとなった。



また、相手側すなわち、中央卸売市場側としても協力期間終了期日を1年後に控え、日本の技術協力の成果を改めて認識し、引き継ぎへの態勢造りに努めていることが認められた。

つぎに、標準建値算出に関連して導入された機材である電算機の効果について述べると、この導入と指導によって同算出の基礎資料すなわち食品の入出荷量等の統計整備が進捗するに伴い、管理部門の資料・統計も整備され、このプロジェクトの主要指導項目である市場運営管理の技術に係る資料が新たに作成・整備されることとなったことは一つの成果であろう。

おしなべて中南米の諸国では、野菜とくに葉菜類を生食する食習慣が広く普及しているとは言えず、アスンシオン市場における野菜としてはトマト、ピーマン、キャベツ、レタスが流通の主なものであるが、なかでもトマトが30年前に導入された作物で、野菜の生食習慣は最近一般に普及し始めた段階であるといつてよい。このように将来需要が増大すると予想される野菜その他の食品のために中央卸売市場を新設し、流通の近代化を図っていくことは同国及び同市のために大きな意義があると考えられる。

この卸売市場の近代化の要とも言える部分に日本人専門家が協力を実施している事実は重要である。本プロジェクトの最高責任者であるアスンシオン市長は、協力の継続を要請しつつ、この市場に3,000人の卸小売業者が入場し、5万の農業者の生産物を取扱い、30万のアスンシオン市民の消費者に貢献している中央卸売市場の重要性を強調した。

## ② 市場運営管理分野の現状と問題

この項目の下では全体計画、集荷計画、卸売計画の作成指導が行われることとされているが、1984年に至りこの分野の専門家(兼リーダー)が派遣されたことにより、問題点が明確となり、かつ、その取り組み方及び具体的な年間計画が整理された。

イ. 全体計画の作成に必要な、機構定員、年間の収支状況、資金状況に係る資料の収集整理が進捗し、市場運営管理全体計画の基礎資料が整備された。

ロ. 集荷計画、卸売計画についても集荷量・出荷量等、資料の収集整備が進み、生産量統計の把握にはなお不十分な点が残されているが諸計画作成の基礎的資料が整備された。

ハ. 問題としては、かねてから指摘している市場運営協議会の設置と協議について具体化していない。今後実効のあがる討議の場がもたれることが望ましい。

ニ. 1985年の最終年次の目標である運営計画作成計画に係る指針の作成については、そのなかに含まれるべき内容の整理を行い、出来るだけ現実的な指針が作成される必要がある。

## ③ 標準建値の算出技術の現状と問題

イ. 1984年までに算出のための資料、すなわち、日別市場入荷量、卸売価格の収集整理、標準建値算出のための業務実施態勢の確立及び公表に備えての建値委員会の設置が行われた。(5月)

ロ. この準備作業の過程で各種統計資料の電算機処理の技術移転が著しい進展をみせた。そしてこのことは単に直接業務に関係する統計資料の収集整備に寄与したのみならず運営管理部門の各種資料の整備にも大きく役立っている。

ハ. 標準建値の公表は12月に本格的に開始されたが、今後の問題としては標準建値という一種の理論値のもつ意義とその活用についての知識の普及に努める必要がある。同時にこの標準建値の内容の質的向上を図る必要がある。

#### ④ 中央卸売市場と小売市場との間の情報システムの整備の現状と問題

供与されたファクシミリは最大の公設小売市場である第4小売市場に設置され、中央卸売市場から標準建値及び入荷量の送信、第4市場から主要品目の小売価格が送信されて来ている。

このような情報システムの整備により、卸売市場及び小売市場の間の価格差、入荷量、販売量等流通関係情報が明らかにされ、食品流通の近代化に寄与するものと思われる。各種関係情報の迅速かつ正確な伝達によるこれらの効果は、農牧省との連携による産地情報の入手情報センターとしての役割を果たす中央卸売市場の機能充実に寄与することが期待される。

今後の課題としては、情報システム確立の効果を評価し、今後の利用拡大の方途を含め指導方針を作成する必要がある。

#### ⑤ 品質管理のための技術の現状と問題

この項目のもとでは具体的には、野菜を中心とする品質規格を定める標準規格の作成作業と冷蔵庫の導入による品質維持管理技術、さらには食品衛生水準の向上を図ることとしている。

イ. 品質規格の設定については、産地への普及を前提としたアスンション規格の作成にとめており、主要野菜、果樹(13品目)についての格付基準すなわち形状、重量、品質等の統一化のための作業を短期専門家の指導を得て実施した。

ロ. 1984年5月にはロベス市場管理局長を委員長とし、卸売業者(野菜、果実別に各1)、小売業者3(野菜、果実各1)、生産者3、学識経験者2、計11名からなる出荷規格委員会が発足し、年内に4回開催され、重要な4品目(たまねぎ、トマト、ピーマン、すもも)について規格基準が検討された。

ハ. 品質規格関連の機材としては、選別機(重量式、形状)、玉ねぎ用ネット詰機が供与された。

ニ. 問題としては、現地の条件に適合した規格基準を作成し、対象品目の数を拡大して

いくこととし、そのための指針を作成することである。

ホ、冷蔵庫の導入による品質管理技術については、1,000 $m^3$ の容量を有する冷蔵庫が7月31日に完成し、8月18日には贈呈式が実施され、9月1日から運転を開始した。

ヘ、冷蔵庫には、国内産及び輸入の野菜（にんじん、ほうれんそう他）及び果実（すもも、りんご、ぶどう）が収納されており、たまねぎの冷蔵保管による価格維持、売れ残り野菜の委託保管等がすでに実施されている。

ト、冷蔵庫の品質管理上の効果及び調整保管による経済的な利便などの検討を重ね、市場の合理的運営への影響を明らかにし、冷蔵庫運営技術の指針を作成することが必要である。

チ、食品衛生水準はとくに生鮮食品については重要であるが、卸売市場の衛生環境は劣悪であり、この分野での改善の余地は大きい。しかしながら改善を効果あらしめるためには広範な種々の分野たとえば一般の衛生知識の向上、上下水道の整備等社会インフラの整備など時間を要し多額の費用を要する性質の事業となる。

リ、したがって、本プロジェクトでは野菜、果物等の品質向上、市場内のゴミ処理の効率化など直接的な効果を挙げ得る分野について指導することとし、そのための機材（散水車、ゴミ回収車、清掃車、簡単な検査機具等）の供与を行った。

## (2) 過去3カ年間の技術協力の結果と課題

### 1) 技術協力の成果

アスンソン市中央食品卸売市場の建設は資金難等により一時中断されたものの、世銀借款や日本政府の技術協力等により、1981年9月に開場、10月には卸売業者も入場し、営業が開始された。市場開場にあたって、最も大きな問題は、卸売業者の移転、すなわち、業者収容の問題であるが、この市場の場合も例外でなくかなりこじれたようであるが、300近い卸売業者が移転し、この国で初めての卸売市場が開場した。

1982年からは専門家3名が派遣され、技術協力も本格的に進み、食品流通の要として中央食品卸売市場の整備が確実に始められた。市場運営分野の長期専門家が未派遣のこともあって、技術移転が遅れた部門もあるが討議議事録（R/D）の基本計画とプロジェクトの実施スケジュールとを対比した場合、全体的には、ほぼ順調に行われているとみてよいであろう。

ところで、技術協力の成果について考察する場合、この種のプロジェクトの場合、日本国と比べて、社会経済事情が異なっており、技術移転にはかなりの時間を必要とするように思われる。むしろ、短急なる技術移転は、逆効果となるケースもあるように思われる。例えば、流通改善プロジェクトのごとく、一面では、商慣習を変えるような問題の場合、これにともなう利害関係もあって、その改善には時間を必要としている。

討議議事録(R/D)基本計画によると、当該プロジェクトにおける技術協力事項は、「中央食品卸売市場の運営管理への指導・助言」と、「これに必要な調査等の指導・助言」の二項目となっている。前者の市場の運営管理の場合、先のごとくこの国の社会事情あるいは経済事情、さらには政治事情とも関連した事項であって、技術移転からみて、早急に実現するには困難な面もかなりみられる。

技術協力の指導項目別に技術協力の成果について要約するならば次のごとくである。

① 中央卸売市場の運営及び管理に関する技術

イ. 卸売市場の運営及び管理に関する技術協力は、その指導項目が広範囲におよぶこともあって、この効果を具体的にとらえることはかなり困難な面もあるが、全体的にみた場合、徐々に効果をあげているとみてよいであろう。

ロ. 市場の運営・管理にあたって、最も重要なことは、アスンソン市中央食品卸売市場が、卸売市場として機能しているかどうかであるが、この点については、部分的には問題はあるものの全体的には市場としての、集荷、販売、さらに価格形成等の市場機能は、かなり強化されているとみてよいであろう。

それとともに、市場運営において必要なことは市場業務量の把握である。すなわち、市場業務量の把握は、一つには市場活動の指標となり、もう一つには市場管理の指標となる。

ハ. 市場業務量の把握とは、具体的には卸売数量の把握である。わが国からの技術協力においても「市場調査」は最も重点をおいた部門であり、1982年6月の当初より長期専門家が派遣された。

一般に、統計整備は先進国の場合もきわめて困難をとまなうものであるが、開発途上国の場合、その困難は一層増大するケースが多い。本件の場合も、その例外ではなく、市場統計の意義・必要性を市場開設者や卸売業者に理解させるためには、かなりの時間を要したようである。

ニ. 派遣された専門家の努力と、機材供与計画により提供された電算機導入により、市場統計は完全に整備された。1984年に電算機が追加導入されたこともあって、この年には、市場入荷量の集計が、入荷締切後2時間以内に集計できるシステムが完成している。このような市場統計システムは、わが国の卸売市場と比較しても遜色のないシステムであり、これによって、市場運営および市場管理は一段と飛躍したといえよう。

ホ. それとともに市場統計の整備により、市場運営としての集荷計画、卸売計画等の基礎が確保されたとみてよいであろう。

② 標準建値算出のための技術

イ. 本件中央食品卸売市場がわが国の中央卸売市場と異なる主要な点の一つに卸売市場

に入場している卸売業者数の問題がある。わが国の場合も単数制、複数制の問題があるが、複数の場合でも卸売市場に入場している業者数が2桁を越える例は見当たらない。だが、この中央食品卸売市場の場合、卸売業者数が200名を越えている状況にある。卸売業者数が200名を越える状況下において、大きな問題としては、市場価格がバラバラに形成される可能性をもっていることである。同一市場内において、価格が異なるということは、その差が小さい場合はあまり問題とならないが、大きい場合、出荷者に対して不信を招く要素となる。

多数の卸売業者の存在によるこのような価格形成上の問題を技術的に解決する方策として、考えられたのが「標準建値」による価格形成方式である。

ロ. 標準建値算出のための基礎となるのは、当日入荷量である。この数値が確保されない限り建値算出は無理といえる。当日入荷量は、先にもみたごとく、市場統計が整備されたこともあって、入荷後2時間以内に確保が可能となった。

次に問題となるのは、建値をどのような方法で発表するかであったが、開設者である市当局が発表する場合、実績値との違いに対する責任問題が発生する可能性がある。

そこで、考えられたのが、第三機関であるが、「標準建値委員会」の設立であった。1984年には開設者、卸売業者、学識経験者等から構成される標準建値委員会も設立され、年末には試験的に標準建値が発表された。1985年1月からは本格的に標準建値発表が実施されており、この分野に対する技術移転も、ほぼその目的を達成したとみてよいであろう。

### ③ 中央食品卸売市場と小売市場との間の情報システムの整備

イ. アスンソン市内には休業状態にあるものも含め9ヶ所の公設小売市場が存在している。これを小売市場の小売業者は中央食品卸売市場より商品を仕入れている。現在第4公設小売市場が規模的には最も大きく、公設小売市場取扱量の約半数を占めている。この地域には以前卸売業者が営業していた地域でもあって、新たに卸売市場が整備されたにもかかわらず、この地域が小売流通の中心となっている。

ロ. 卸売市場と小売市場間の情報システムの整備は、小売市場への消費者の購入行動を消費者の居住地に最も近い市場に結びつけることを目的として、各小売市場間における価格差を排除するために、卸売市場と各小売市場間の情報伝達網整備を計画したものである。

1984年には中央卸売市場と第4公設小売市場の間にファクシミリを設置し、卸売市場から当日の卸売価格を小売市場に伝達している。それとともに、小売市場における小売価格が卸売市場に報告されている。

ハ. 卸売市場と小売市場を結ぶ情報システムは現段階では第4公設小売市場のみであるが一応整備された。

中央卸売市場での標準建値や卸売価格は即刻小売市場に対して伝達されている。情報システムが公設各小売市場に整備されるならば、どの小売市場でも、中央卸売市場での価格が収集可能となる。

そして、終局的には、公設小売市場間の価格差は排除され均一化することとなる。これによって消費者はどの小売市場でも小売価格は平準化することとなり、消費者は、最も身近の小売市場において購入することとなる。

#### ④ 品質管理のための技術

イ. パラグアイ国において、野菜・果物等の生鮮食料品が商品段階に入ったのはそれほど古い歴史ではない。そのため、商品として、野菜・果物をみた場合、まだ不完全な部分が多岐にわたる。すなわち、卸売市場に入荷する青果物は品質、規格とも、平準化されておらず、粗悪品が混入していることが多岐にわたるが実状である。

ロ. 中央卸売市場が卸売市場としての機能を高めていくためには、集荷・配荷等流通面での機能を充実させるとともに、一方では、当然卸売市場で取引される食品が品質面、規格面で、小売業者また、消費者の信頼を得ることが重要となる。

また、品質差に基づく価格差は生産者に対して、良質の生産物を生産させるための礎ともなるもので、それは商品生産を促進させる要因ともいえよう。

ハ. 1984年には品質規格のための規格委員会が設立され、中央卸売市場で取引される青果物についての規格化の検討がなされた。規格委員会では、パラグアイ国の取引形態また、消費形態等を考慮してこの国の実情に即した規格が設定される予定である。

本来、規格化は産地段階で徹底されるべき性質のものであるが、先にも述べたごとく、この国での商品生産の歴史が浅いこともあって、消費地側で、取引規格を定め、これを産地に対して普及していく方策が考えられている。

選別方法については、1985年に機材供与として、選別機械の提供が計画されており、当面、この機械を卸売市場に導入し、規格委員会での規格に基づいて選別が実施される予定となっている。

#### ⑤ 卸売市場の運営に必要な調査・解析技術

イ. 卸売市場運営と関連する調査として、物流調査と消費者動向調査があげられている。この調査のねらいは、卸売市場は食品流通における最も主要な機構であるが、一方では流通は供給状況により、また、需要状況により常に変化する可能性をもっているであり、このような供給する側、需要側での変化、具体的には環境変化に対応することが将来的には重要となる。

そこで、このような供給側、需要側での変化をとらえるものとして、物流調査や消費者調査が重要な役割を果たすものである。

ロ. 生産、流通に関する調査は卸売市場側からみた場合、二つの面から考えねばならな

い。一つは市場入荷時点であり、もう一つは市場配荷時点である。

市場入荷時点における物流調査（入荷先別又は品目別の輸送手段等）は、当初入荷量調査と同じ様式で調査が計画され、実施された。すなわち、入荷調査票の中に輸送手段を記入する方法であった。だが、実際上の問題として、入荷時点での調査事項の増加により、入荷が混乱する原因になったこともあって現在は実施していない。中止したもう一つの要因として、入荷調査は毎日調査であるが、輸送手段は、毎日変わるような性格でないこともあった。

この調査については「毎日調査」よりもある期間をとって、定期的に調査する方が効率的であろう。

市場配荷についての物流調査は、卸売調査の中で、仕向先別の流通量について実施されている。すなわち、卸売業者がどの地域の又はどの小売市場の小売業者に販売したかが調査されている。このことによって、配荷の範囲は把握可能となっている。

卸売業者がどの地域の小売市場に存する小売業者に対して販売したかは調査されているものの、買付た小売業者が、どのような方法で市場に来たのか、また、どのような方法によって、所在小売店まで輸送したか（自家用トラックか、路線バスか、タクシーか等）すなわち、搬出状況については調査されていない。

ハ、消費者調査については、1983年に市内200世帯について、青果物の購入状況、消費状況について実施した。また、1984年には、さらに100世帯について1ヶ月間における青果物の購入・消費状況について調査を実施した。

調査結果によると、最近数年間において消費者の野菜に対する意識、また、購入態度もかなり変わってきているようである。これは一つには消費構造が変わっているとみられるとともに、一つには市場流通が整備され、品質の良い青果物が市内に出廻り、これによって消費者の意識が変わったともいえよう。

#### 技術協力の成果（概要）

指導項目	技術協力の成果について（概要）
I 中央食品卸売市場の 運営管理への指導助 言 1.市場の運営・管理 全体計画，集荷計 画，卸売計画等の 作成	(1)パラグアイ国等南米諸国と日本国との場合には社会経済事情が異なり、日本国の技術が、そのまま適応できないが、パラグアイ国の実情に応じた形態で移転が進んでいる。 (2)市場運営の主体は卸売業者指導であるが、業者においても卸売市場の役割が理解されつつある。

指導項目	技術協力の成果について(概要)
2. 標準建値算出のための技術	(1) 標準建値の算出については建値計測技術及び標準値と実績値の差の解決のための諸事項についても検討されている。 (2) 建値委員会も設立され、標準建値も公表されている。
3. 卸売市場と小売市場間の情報システムの整備	(1) 中央食品卸売市場と第4公設小売市場との間にファクシミリが導入され、情報伝達が始められている。 (2) このシステムでは卸売市場から標準建値が伝達されるとともに、一方では小売市場での小売価格を収集している。
4. 品質管理のための技術 選別技術、格付技術、食品衛生対策等	(1) 規格問題については規格委員会も設立され、規格作成のための検討が始められた。 (2) 選別機械の導入により、卸売市場内において、上記規格による選別開始の予定である。
II 中央食品卸売市場の運営に必要な調査・解析技術への指導助言	
1. 生産・流通に関する物流調査	(1) 卸売市場への搬入及び卸売市場からの搬出実態については、市場入荷統計及び市場出荷統計の中で、部分的に実施した。
2. 消費者動向調査	(1) 消費者調査は1983年に市内200世帯について、購入方法、購入実態について調査を実施した。 (2) 1984年には、100世帯について、1ヶ月間における青果物の購入、消費状況について調査した。

## 2) 技術協力における今後の課題

卸売市場整備のための技術協力はその速度は遅いものの、徐々に確実に、パラグアイ国に対して浸透し、効果をあげているといえよう。だが、先にもみたごとく、わが国と社会経済事情が異なっており、この速度を上げることは、きわめて困難であり、むしろ、悪影響をおよぼす可能性もある。残されたわずか1ケ年の協力期間において、その全てを実現するかはともかく、今回の巡回指導調査において、次の点が今後の課題としてあげられよう。

### ① 中央卸売市場の運営及び管理に関する技術

イ. 卸売市場における主要な機能としては、集荷機能と卸売機能があげられる。この担い手は卸売業者である。そこで、卸売市場の発展のためには卸売業者の健全な育成が不可欠の条件である。特に、アスンシオン市中央食品卸売市場のごとく、卸売業者が200人を越えるような市場の場合、規模差もあり、経営方法、経営感覚も異なって



おり、これを統一化することはむずかしいが卸売市場の信用を確保し、安定的に発展させていくためには少なくとも次の点についてはとり決めておく必要がある。

(i) 卸売業者が生産者から委託された青果物を販売した場合、販売代金の支払い期間及び支払方法等について。

(ii) 卸売業者が小売業者に青果物を販売した場合、販売代金の回収期間および回収方法等について。

ロ. 調査団は今回事例的にイグアス地区の生産者調査を実施した。これによると、卸売業者の生産指導については高い評価をしているものの、代金支払いについてはかなり長期のものもあり、卸売業者に対する不満も若干でている。

## ② 標準建値算出のための技術

イ. 標準建値の算出については、建値計測のための技術的な問題はほぼ解決されており、また、建値委員会も設立され、標準建値が毎日公表されている。

だが、この分野における問題として、建値の発表が毎日午前3時30分に行われることもあって、これを実施するためには、深夜における入荷量の調査作業、集計作業さらには建値の計測作業が必要となる。このような深夜における高度技能労働力の確保がこの国ではかなりむずかしいようである。なお、この問題は技術協力以外の問題でもあり、ここではとりあげない。

ロ. 今後、この分野で必要なことは、卸売業者、小売業者等その利用者に対して、その意義を理解させることであろう。標準建値は1985年1月より卸売市場内に提示されているが、現段階において卸売業者、小売業者が、これを利用している例は少ないようである。利用促進のための諸方策についてさらに検討する必要がある。

それとともに、このような標準建値の公表が、卸売業者、小売業者、さらには生産者等関係者に対してどのような影響を与えているかについても調査する必要がある。

## ③ 卸売市場と小売市場間の情報システム整備

イ. 卸売市場と小売市場間の情報システムについては、現在中央食品卸売市場と第4公設小売市場の間で、卸売価格の提供と小売価格の収集が実施されている。だが、このシステムによって流通している情報は、現段階では市場管理当局で利用されているにとどまっており、流通業者（小売業者等）が利用する状況にはない。

ロ. 卸売市場から小売市場に提供される卸売価格や標準建値を小売市場内に提示して、小売業者や買出消費者に対して提供することは、これらの情報が関係者（卸売業者、小売業者）に与える影響が大きいと考えられるので、さらに検討が必要であろう。少なくとも次の点について明らかにする必要がある。

(i) 卸売価格や標準建値を卸売市場から小売市場の小売業者に対して提供した場合、情報提供による関係者（卸売業者や小売業者）への影響度を調査する必要がある。

(ii) 卸売価格や標準建値を公設小売市場において小売業者以外の消費者等に提供する場合には、情報提供による関係者（卸売業者や小売業者）への影響度を調査する必要がある。

④ 品質管理のための技術

イ. 品質管理は選別、規格、食品衛生から構成されているが、選別、規格問題においては規格作成が要点となる。規格については現在規格委員会も設立され、規格作成のための検討が始められている。

規格については、細分化した規格を作成することが、価格形成面や生産指導面では望ましいことではあるが、現実とあまりにもかけ離れた規格は実現の可能性はきわめて低いといえる。そのため、規格は生産者や流通業者さらには消費者が理解可能な範囲からはじめる必要がある。

ロ. 食品衛生の問題については進捗度はかなり遅れている。衛生管理は卸売市場において、重要な課題ではあるが、規格問題とは異なりこの国の又は当該市における食品衛生との関係が深く、この点の調整が必要であろう。

⑤ 市場運営に必要な調査・解析技術

イ. 生産・流通調査及び消費動向調査は卸売市場流通の与件に関する調査である。すなわち、流通は需給関係の変化により変わる可能性をもっており、市場流通の将来性を考えるうえできわめて重要な調査であるといえる。

これらの調査については、まず、市場管理当局者に対して、その意義を理解させることが必要であろう。

ロ. 生産・流通調査・消費動向調査については、ある程度定期的な実施する方向で進めていく必要がある。

それとともに、この調査結果を利用して需要見直しの計測、また、今後の市場流通量の計測等について検討する必要がある。

技術協力における今後の課題

指導項目	今 後 の 課 題
<p>I 中央食品卸売市場の 運営管理への指導助 言</p> <p>1.市場の運営・管理 全体計画,集荷計画, 卸売計画等の作成</p> <p>2.標準建値算出のた めの技術</p> <p>3.卸売市場と小売市 場間の情報システ ムの整備</p> <p>4.品質管理のための 技術 選別技術,格付技術, 食品衛生対策等</p>	<p>(1)卸売市場の業務は卸売業者の指導を主とする運動部門と施設の 維持・管理を主とする管理部門とに区分されるが,市場の運営 ・管理において重要なのは前記の業者指導である。</p> <p>(2)卸売業者の健全な育成をはかるための指導要領の作成が必要で あろう。</p> <p>(1)標準建値計測のための技術的な問題については技術移転もほぼ 完了し,委員会も設立され,標準建値も公示されている。</p> <p>(2)この分野での今後の課題としては,卸売業者,小売業者に対し て,その意義を理解させ,効果を調査する必要がある。</p> <p>(1)このシステムのねらいは,卸売市場での標準建値を小売市場に 伝送することにあつたが,小売市場の小売業者の多くは伝送される 以前に卸売市場に出向いているため,利用価値が薄れている。</p> <p>(2)上記の点も含め,このシステムが関係者(卸売業者,小売業者) に与える影響も大きいので,再検討の必要がある。</p> <p>(1)規格化の問題は,この国における実現可能な範囲で進める必要 があろう。</p> <p>(2)食品衛生の問題は,卸売市場の信用問題とも関連する問題であ り,ある程度厳格に実施する必要がある。</p>
<p>II 中央食品卸売市場の 運営に必要な調査・ 解析技術への指導助 言</p> <p>1.生産・流通に関す る物流調査</p> <p>2.消費者動向調査</p>	<p>(1)卸売市場の整備を契機として,この国の流通構造も徐々に変化 している。この調査は市場環境について調査するものであり, 定期的に進める方向で検討する必要がある。</p> <p>(2)この調査の意義についても徹底させることが必要であらう。</p> <p>(1)青果物主体の卸売市場の設立により,青果物に対する消費者意 識又は消費行動に変化がでている。</p> <p>(2)物流調査と同様又,需給計画作成のためにも,定期的に調査す る体制を整えておく必要がある。</p>

II 技術協力の現状と課題

1 技術協力の実績比較検討表

指導分野	技術移転実績 (昭和57年～昭和59年の実績)	進捗度			問題点	昭和60年1月～12月までの実施方針	
		A	B	C		問題点への取り組み方	具体的年間計画
I 中央食品卸売市場の運営管理 に必要な下記項目の指導助言 1. 市場の運営・管理に関する技術 a. 全体計画 b. 集荷計画 等の作成手法 c. 卸売計画	1-(1) 57年次は市場管理機構、事務分担、予算書の検討、集荷・卸売計画に必要な生産諸統計及び市場統計等の収集			C	I-1 このポスト欠員により2年間大幅なおくれ、早急な指針の提言の必要。問題点を箇条書に整理 1) 全体計画のため組織図と職員の分担機能不明確 2) 卸、小売業界の異動の調査 3) 予算決算書年次比較必要 4) 市当局と業界の対活欠如 5) 産地指導担当農牧省と市場は行政区域が異なるも情報交換が必要、集荷計画の立案と関連 6) 小売市場の需要予測と卸売計画立案の関連、その他衛生管理など	I-1-a 全体計画 1) 組織図と職員の配置図(85.1.1) 2) 市場施設利用状況(1984.12.末) 3) 経常収支計画(1982.1～1984.12) 4) 資金計画(1982.1～1984.12) 5) 市場運営協議会の設立(協議) 1-b 集荷計画 1) 品目別、産地(県)別生産量統計の整備及び作付情報の収集 2) 品目別産地(県)別、年次別入荷量の検討 3) 集荷計画表の作成と実施 1-c 卸売計画 1) 品目別、出荷先別出荷量の検討 2) 消費者動向調査結果の分析需要量の予測を行う 3) 卸売計画表の作成と実施	I-1 a. 全体計画は 1～3月末まで作成 1) 4～5月末 " この間財務処理 コンピュータ 2) 4～5月末 " 技術移転完了 b. 6～8月上旬記a,b,cについての適応性の検討見直し c. 9～10月末 運営計画指針の作成 d. 11月末 引渡し
	-(2) 58年次は場内小売業と卸売業との機能分担、対象品目の検討、場内青果物卸売業界「日報」収集			B			
	-(3) 59年次は後半、コンピュータ処理をとおして全体計画のため財務諸表(収・支-日々)の入力、集荷計画のための品目別、産地別入荷量(月別)と生産量諸統計の関連調査、卸売計画のための品目別出荷先別数量の調査			B			
2. 標準建値の算出技術	2-(1) 57年次は市場入荷量の日別データ整備のため入荷申告カードの作成、卸売価格調査			C	I-2 建値理論値の算出のねらいの理解度の徹底。上・下限をはみ出る価格形成の解明。当日入荷量と価格形成との関係と前日残量の影響度。24時間交替勤務のなかの深夜勤務体制の確立と連体責任体制の確立。入荷量、建値公示の黒板掲示(約1時間余必要)の問題	I-2 1) マイクロコンピューターによる統計処理研修生の指導の強化(短期専門家来バ) 2) 標準建値公示定着化のため電算室勤務責任体制の組織分業の明確化、特に深夜勤務体制の確立 3) 公示方法の迅速化	I-2 1) 1～6月まで技術移転完了(コンピュータ維持管理指導も含む) 2) 1～3月までに明確化 3) 機材(簡易電光式)の検討(現在は黒板の表面を毎日取替記入方式で対応それでも20分から30分の時間を要す) 4) 6～8月まで指針の作成 5) 11月末引渡し
-(2) 58年次は入荷票による全品目(野菜44, 果実28)入荷量の把握、オペレータ5名専従、24時間交替勤務			C				
-(3) 59年次建値委員会発足。標準建値モデル野菜10, 果実10とし算出プログラム完, 3, 12月中旬より公示開始			C				
3. 中央卸売市場と小売市場との情報システムとその整備	3-(1) 57年次は日々の品目別価格(安値・中値)及び産地別(国内・外)の情報を第4公設小売市場へ			C	I-3 小売市場を中心に発展して来たこの国に中央卸売市場が開設され、全国産地と国外から大型出荷豊富な品数が揃う段階は一大成果とみるが、卸売市場と小売市場の情報交流はいま一步。入荷量・卸売価格の提供がファクシミリ設置によりスピード化されたが、その提供は第4公設小売市場のみ、消費者情報の交流はこれからという段階	I-3 1) ファクシミリによる小売市場への情報システムの確立 (1)速報第1報午前3:30(建値) (2)速報第2報午前8:30(全品目) (3)確報第3報午前10:30(産地別, 県別) (4)旬報(10日毎), 月報(1ヶ月) 2) 小売市場から中央市場への日報送信(品目の拡大) 3) 情報は市場内卸、小売にも提供 4) 情報品目の拡大と全国にむけ提供 5) 外国市場の収集への取組み	I-3 1) 1～6月まで技術移転を完了(維持管理指導を含む) 2) 7～8月まで運用に係る指針の確立 3) 6月までに農牧省市場連絡所を設置、市場情報、産地情報等の交流を拡大(全国に伝達) 4) ブラジル=セアザ卸売市場及びアルゼンチン=ロザリオ市場等検討
-(2) 58年次は対象15品目の入荷量、標準建値算出の継続的試行のみ実試。本格的実施は3年次へ			B				
-(3) 59年次は対象20品目に拡大、標準建値算出プログラム完成、併せて9月下旬ファクシミリの設置と共に第4公設小売市場より日報の受信、中央卸売市場入荷量、標準建値、卸売価格の送信を開始			B				

指導分野	技術移転実績 (昭和57年～昭和59年)	進捗度			問題点	昭和60年1月～12月までの実施方針	
		A	B	C		問題点への取り組み方	具体的年間計画
4.品質管理のための技術	<p>4-(1)57年次は対象品目の選定</p> <p>-(2)58年次は格付基準の設定(A,B,C,格外)形状,重量,品質等の基準,箱・袋等の統一化及び冷蔵庫設置,準備作業計画策定,見積基礎工事完了</p> <p>-(3)59年次は規格委員会5月発足,主要30品目について2年計画で品質規格等の基準を設定し箱・袋等容量の統一化に卸売業界,産地指導を開始更に品質管理,食品衛生知識研修のため短期専門家の派遣を要請,冷蔵庫追加基礎工事着工</p>		B	C	<p>I-4</p> <p>日本ほど商品生産化された栽培でないこの地方の青果物は極端な粗悪品でない限り品質管理はきびしくない。良いものは指名されるが悪いものも売れる。通い箱方式はこの国では改定された一面である。売りすて小箱は日系業界での特定商品(ぶどう・すもも・メロン等)に限定される。但し,大中小別,優良別選別化が行われ価格形成に変化を見れば,生産管理も次第に向上すると思われるが当面袋づめの規格化が重要。箱代・袋代を償却するほど高く売れない。</p>	<p>I-4</p> <p>1) 主要30品目についてアスンソン規格の作成 (1)格付技術,選果技術 (2)包装技術(木箱,袋の規格) (3)食品衛生知識 短期専門家来バ(2～5月) (4)冷蔵庫に関する技術(利用意向調査) 短期専門家来バ(2～5月)</p> <p>2) 具体的実施について取り組み方の協議</p>	<p>I-4</p> <p>1) 1～6月まで作成 委員会開催協議 (具体的実施時期は別途協議) (1)機械の設置(選果機等) (2) " (包装機材等) (3)研修(2～5月) (4)研修(2～5月)</p> <p>2) 7～8月 具体的取組協議</p> <p>3) 9～10月 指針の作成</p> <p>4) 11月末引渡し</p>
<p>II 市場運営に必要な調査・解析技術</p> <p>1.生産流通に関する物流調査</p>	<p>II 1-(1) 57年次農産物対象品目を選定 最近20年の累年統計の整備,82年国税調査資料,農牧省,勧銀統計から作付面積,生産量,生産額</p> <p>-(2)58年次1962～1979までのデータ整理,農産物輸出入統計の整備検討,累年統計の「断層について部分的整理</p> <p>-(3)農牧省生産量統計の整備(82年まで)市場入荷量の年次比較,生産量統計との関連検討。当日入荷量と前日売り残り在庫量に係る価格形成との関連,当日入荷量の正確性の確認は4年次へ</p>			C	<p>II-1</p> <p>日々入荷される青果物は裏をかえせば産地別出荷量となるが産地の生産者との関係からの確認はなく中央市場むけ,地方市場むけなどの調査もなく,且つこれは農牧省所管でデータの収集をはかる必要があるが調査をしむことが可能か。また輸送手段と道路交通網の整備が集配圏を限定していることなど需要予測との関連が問題</p>	<p>II-1 生産流通に関する物流調査</p> <p>1) 農牧省生産量統計を整備し(品目別,県別,年次別)市場入荷量との年次比較を行い集荷計画の粗データ</p> <p>2) 作付情報(作付面積,作柄)の収集 情報伝達の粗データ</p> <p>3) 外国市況の収集への取組み</p> <p>4) 卸売在庫量の検討</p>	<p>II-1</p> <p>1) 1～3月まで作成手法の確立</p> <p>2) 作付,情報等はその時期ごとに収集伝達の手法の確立(6月末)</p> <p>3) 外国市況は日毎に収集伝達手法の確立(6月末)</p> <p>4) 卸売在庫量と入荷量との関係が卸売価格に及ぼす影響の検討(8月末)</p> <p>以上のことを報告提言(9月)</p> <p>11月末引渡し</p>
2.消費者動向調査	<p>2-(1)57年次は調査対象数の決定 82年国勢調査より2,000世帯の1/10を抽出調査方法(留置,面接)をきめ翌年実施</p> <p>-(2)58年次はアス市在住200世帯に対し調査員による面接調査,店舗との距離,時間,乗物,回数,品目別,量,金額</p> <p>-(3)59年次,前年次抽出標本から記帳能力のある100世帯(勤労者)から1カ月(9/1～30日)間の記録回収(82戸・分析可能50世帯),コンピュータ入力審査開始,所得による。 5階層から集計取まとめ4年次</p>			C	<p>II-2</p> <p>過年度の調査で消費者の購売行動,意識,量や金額等も調査された。今回は記帳により所得階別,品目別,購入量,金額が記録され一段と進歩したが使用可能個数は乏,審査基準により補完調査の必要の発生も考慮,結果は4年次に判明</p>	<p>II-2 消費者動向調査</p> <p>1) 調査結果の解析検討</p> <p>2) 補完調査の実施</p> <p>3) 総合的検討</p> <p>4) 上記結果についての関係機関への報告提言</p>	<p>II-2</p> <p>1) 6月末まで作成総合的検討</p> <p>2) これらの結果を報告提言 7～9月</p> <p>3) 11月末引渡し</p>



## 2 技術指導分野別の問題点への対応方法

### (1) 卸売市場の運営管理に必要な技術について

#### 1) 市場の運営管理

中央卸売市場管理局側からみた場合、主要な業務として、「施設管理」と「業者指導」があげられる。そこで、この二つの点からみて、現在のアスンソン市中央食品卸売市場がどのような状況にあるか、またどのような問題点をかかえているか、さらにその解決策としてどのようなことが考えられるかをみることにする。

#### ① 施設管理

中央食品卸売市場は、この国では「南米一」の卸売市場といわれている。これは施設面からみて、その規模が大きいこと、また、市場内の流線がきわめて効率的にできていること、さらには、その利用者が多いためである。そのようなこともあって、卸売市場を施設面からみた場合、部分的にはともかく、全体的にはあまり問題は見当たらない。改良の必要のあるのは次の点であろう。

#### イ. 市場境界線の整備

中央卸売市場の出入口は主要道路側（正面側）の1ヶ所となっている。ここから、車及び歩行者が出入りしている。だが、歩行者の中には裏口から出入りしている者もかなりいる。この部分は、境界線で鉄条網が張られていた部分であるが、取りはずされて通路となっている。市場裏面の境界線はこの部分のみならず、数ヶ所が切断されている。そのため場内物資の盗難の原因にもなっている。

C棟に入場している卸売業者の中には盗難防止のために、夜中泊り込んで見張をしている者もいる。

このような事態は市場管理上問題であって現在の鉄条網による境界管理体制から、ブロック塀の設置等、再検討する必要がある。また、裏口を利用する歩行者対策として、正面口に廻ることが距離的に問題があるので、裏面に歩行者用の出入口を設置する等を検討する必要がある。

#### ロ. 市場内の排水問題

この国のスコール現象は日本人には理解できないもので、まさしく集中豪雨の現象である。場内には排水溝が整備されているものの、その規模が小さいこともあって、凹地はたちまちと池となる。

このスコール現象は、皮肉にも、一方では清掃の役割も果しており、市場の場合もこれによって場内のゴミが流去される。

だが、これら雨水の排水先が問題であって場内の排水溝が場外の排水溝と接合していないため（場外には排水設備が整備されていないこともあるが）、これらの雨水は隣接の民家に流入している。このことは新聞にも取り上げられており、社会的な問題

にもなっている。先のごとく、雨水の中には場内のゴミも含まれており、住民の苦情はかなり大きいようである。

排水溝の未整備による不衛生は商品管理上の問題でもあって、施設整備面で一層の努力が必要であろう。

#### ハ、停電問題

施設面における大きな問題として停電問題がある。この国の停電はかなり頻度が高いようである。停電の一つは市場業務上の問題として、もう一つは電算機への影響である。

周知のごとく、卸売市場における業務量は小売業者の買出し時刻である早朝（というよりも夜中と言える午前2～4時）に集中している。そのため、停電が市場業務にあたえる影響はきわめて大きいといえる。また、1984年に建設された冷蔵庫の場合には、納めてある野菜等の品質劣化及び冷蔵機器の故障の要因ともなる。

電算機については、先にも見たごとく市場統計、建値形成のために重要な役割を果たしている。これが中断した場合、市場管理上大きな問題となる。

管理当局においては、市場業務の円滑な遂行のために、何らかの停電対策を講ずる必要がある。

#### ② 業者指導

先の施設問題は市場管理面からみた場合には、わが国の専門家が技術指導をしなければならぬという面は特に見当らない。なぜならば技術問題よりむしろ当事国の判断を要する面がきわめて大きいからである。

だが、業者指導とこれとは性質の異なる問題である。なぜならば、この問題は卸売市場の信用にかかわる問題でもあるからである。すなわち、業者が、各自で勝手な方法をとった場合、市場秩序を乱し、ひいては、市場不信の要因ともなりえないからである。業者指導については、特に次の点について、留意検討する必要がある。

##### イ、生産者、出荷者対応

今回の巡回指導調査団は事例的に場内の卸売業者について、取引状況、市場効果等について、聞き取り調査を実施した。

これによると、卸売業者が生産者や出荷者から青荷物を集荷する場合、全面委託と買取りの場合と二通りあるようである。代金の支払いは買取りの場合は現金払いが原則となっているが、委託の場合、その期間は業者によってかなり違っているようである。長い場合は1ヶ月を越える例もある。

この面で必要なことは、「市場規則」等を定めて、この市場では、代金支払は、このような方法で、何日以内に実施しますということを明示する必要がある。これによって、生産者・出荷者からの市場に対する信頼は一段と高まるものと思われる。



このほか、卸売業者を通じて、産地指導や産地育成、さらには品質管理の方法等についても、指導する必要がある。

#### ロ、小売業者対応

取引業者間における“力関係”は一般に商品の需給関係に左右される。すなわち、供給不足下においては、供給側が強い条件を要求し、反対に、需要不足下においては需要側が強い条件を出すという形になっている。パラグアイ国における青果物需給の場合、短期的にはともかく、隣国から輸入が可能なこともあって、全体的には過剰化の傾向にある。そのため、先の卸売業者の生産者・出荷者への対応にもあるごとく需要側に近い取引業者の力関係が強くなっている。

このような傾向は卸売業者の小売業者に対する態度にもみられる。卸売業者は産地に対しては“強い立場”にあるものの、小売業者に対しては“弱い立場”にあるようである。そのことは、販売代金の回収にもみられ、原則的には現金即日払いであるが、延べ払いのケースも若干みられた。反対にみるならば、このような、小売業者からの支払期間の不安定が、産地支払を遅らせているともいえよう。

販売代金の回収や支払いが卸売業者に与える影響はきわめて大きいですが、少なくともこの点については、卸売市場として一律化していくことが必要であろう。

#### ハ、経営指導

卸売市場には300近い卸売業者が入場しているが、数が多いこともあって経営の格差はかなり大きいようである。例えば、入場している卸売業者の経営権が、他の業者に変っている例もかなりあるようである。

このようなことが、生産者・出荷者又は小売業者に与える影響はきわめて大きいといえる。そのため、当局においては、業者を管理することも必要であるが、一方では健全育成のため、経営相談、経営指導についても検討する必要がある。

### 2) 標準建値の意義と利用方法

標準建値は先にもみたごとく、1985年1月から本格的に開始された。その目的についてはすでに考察したが、価格形成面の問題も含めて、この分野では次の点について検討する必要がある。

#### ① 卸売業者、小売業者に対する普及

調査団が開き取り調査した卸売業者の場合、毎朝公表される建値は見ているとのことであった。だが、これを基準にして販売価格を決めるかという点、必ずしもそうではないとのことであった。それは、当日の買手である小売業者の行動によって決まるためでもある。

この点からみた場合、市場が開設されてそれほど時間が経過していないこと、また、建値が公表されてから、まだ日数が浅いこと等も影響している。

卸売業者、小売業者において建値について理解を得るにはかなり時間を要するよう  
に思われる。このような方法は、先進国である日本国においても未だ実施されていな  
い方法であり、パラグアイ国においては、卸売整備の歴史も浅い。

標準建値については、時間をかけて、卸売業者、小売業者にその意義を説明し、普  
及させていくことが必要であろう。特に、卸売業者については、集荷先である生産者  
・出荷者に対して、中央卸売市場では、このような科学的な方法によっても、価格形  
成が行われており、市場価格が公正に決められていることを認識させるべきであらう。

これによって、生産者・出荷者は卸売市場への信頼を高めてくるものと思われる。

なお、調査団は産地の生産者から聞き取り調査をしたが、対象生産者はこのような  
建値形成が実施されていることを知らなかった。

## ② セリによる価格形成

卸売市場では建値が形成されているものの一般的には“相対取引”となっている。  
また、葉物については規格化が困難であるため、建値の対象となっていない。

標準建値の算出にあたって問題となるのは頭初期の価格形成である。建値の算出方  
法は過去の実績（入荷量と価格）を基礎として実施されるため、入荷の頭初期はきわ  
めてむずかしくなる。

このような頭初期における商品について、価格形成を公正に行うためには、一時的  
に（頭初期のみ）“セリ方式”又は“入札方式”を実施する方法も考えられよう。こ  
れによって、価格形成が、生産者および小売業者等利用者に対して、満足を得ること  
ともなろう。

## 3) 市場間の情報伝達

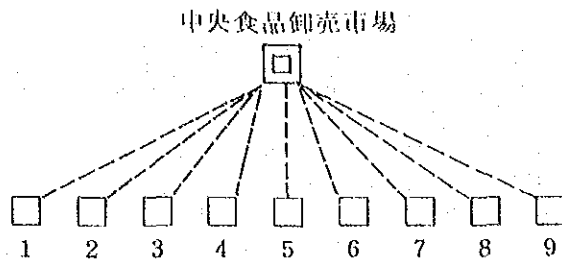
卸売市場と小売市場を結ぶ情報システムとしてはファクシミリが中央食品卸売市場と  
第4公設小売市場の間に設置されている。だが、先にもみたごとくその利用度が低いのが  
現状である。情報システムについては今後次のごとき事項について検討する必要がある  
らう。

### ① 情報伝達網の整備

現状のシステムは中央卸売市場と第4公設小売市場間の伝達のみである。周知のご  
とく、第4公設小売市場付近は、現在最も取扱いの多い小売市場地区であり、この市  
場は物流のみならず、情報面でも有利性をもった形態になっている。

この面からみた場合、物流面で立遅れている他の小売市場に対して、最新の情報を  
提供する方策こそ情報システムにおいて必要なことと考えられる。すなわち、休業中  
もあるが、9ヶ所の公設小売市場に対しても情報を提供することが必要であろう。

これによって、第4公設小売市場以外の公設小売市場にて購入する消費者の不利益  
を排除することとなろう。



## ② 消費への情報提供

市場間情報システムで提供する情報の内容は卸売価格と標準建値であり、その提供先は公設小売市場の小売業者である。だが、前段でみたごとく、小売市場の小売業者に対して標準建値を提供しても、その時刻は多くの小売業者が中央食品卸売市場に買出しに向いている時間帯であって、利用価値は少ない。

公設の小売市場間で格差がでているのは、利用性の低い公設小売市場の小売業者が良い商品を仕入れないことと、これと関連するが、消費者が購入に向かないことがある。すなわち、消費者側からみた場合、第4公設小売市場付近には私設小売市場も多く、従って品揃えも良く、価格も安いという先入観があるように思われる。

このような状況下であって、利用度の低い第4市場以外の公設小売市場に必要なことは地方の市場においても、第4市場周辺と同じ品物が購入可能であり、価格も変わらないということを認識させることであろう。そのために、システム化による情報提供を小売業者のみならず、消費者に対しても提供することが必要であろう。

第4市場以外の公設小売市場では、このような消費者からの信頼を得ることが、まず必要であろう。

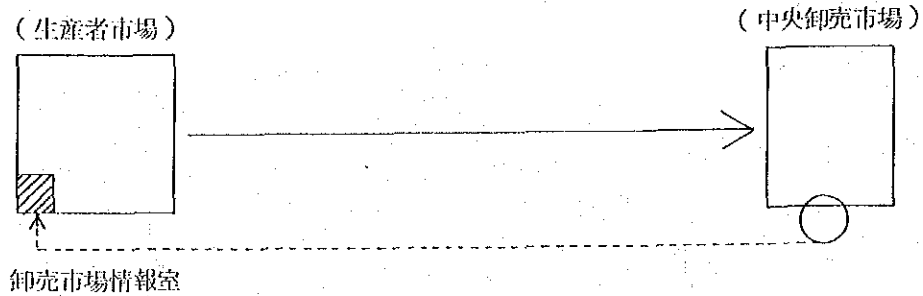
## ③ 産地に対する情報提供

情報提供を中央卸売市場から小売市場のみならず、生産地に対しても提供したいという考えは、かなり前から市場当局から出されていた意見である。

この点については専門家も巡回指導調査団も同意見であり、特に問題はないが、産地に対して、機材を供与することは技術協力の制度上問題があるのでここでは取上げない。

だが、今回の調査団、専門家、市場当局の打合せ上において、ロベス市場管理局長から提案された「生産者市場」の育成と、この市場への情報提供については、若干問題があるので考察することとする。

これはブラジルにある生産者市場の類似のもので、青果物の産地に市場を整備し、この市場まで生産者が自から生産物を持ち込み、ここに中央食品卸売市場から卸売業者が出向き、生産者から生産物を買取るという方法である。



生産者市場に持込む生産者の範囲は周辺15 Km位で、これは直接中央卸売市場に持込むことが困難な地域の生産者である。この生産者市場には、中央卸売市場から、建値等の情報を提供するという考え方である。

この方式の問題は、第1に、同一品目について、産地価格と消費地価格が形成される点にある。この方法は交通が未発達地域で、また、情報の未発達の段階では可能であるが現段階では不可能である。第2に、生産者市場に卸売業者が出向く場合、需給関係と関係なく価格形成がなされる可能性がある点である。すなわち、卸売業者は将来の需要に対して思惑で買付けることとなり、その危険性は高くなる。そのことから、当然ながら卸売業者の手数量は上昇する可能性がある。第3に卸売業者は買付価格よりも高い販売価格が必要となり、消費地の需給関係を反映しない価格となる。以上の点からみて、生産者市場の整備は卸売市場が整備されている現段階ではかなり問題といえる。

だが、生産者市場ではなく、生産者が各自の小量の生産物を集めて、大口のものとして消費地に配送するための機構であるならば別である。

これはいわゆる産地集荷施設といわれるものであり、この施設を利用して、選別、包装等が行われるならば、この国における青果物の商品化は一層進むものと思われる。だが、一般的には、このような施設は生産者や生産者団体に建設される性質のものである。

#### 4) 品質管理のため技術

品質管理のうち、規格化の問題については1985年の早いうちに選別機械が供与される予定であり、具体化するであろう。この分野では今後次のようなことが必要となろう。

##### ① 規格表示

規格化は品質、大きさの両面から進められるが、規格化された物資について、市場管理局又は規格委員会の名において規格表示をする必要があろう。

すなわち、規格表示された物資については卸売市場が責任をもつというものであり、これによって、小売業者、消費者の信頼を高めるものである。

規格化も大きさについては機械処理によって可能であるが、品質については、味、色、ツヤ等のごとく機械化が困難でありバラツキの可能性があり、そのため、バラツキを最小限にするために、統一化の基準作成、また、選別担当者の訓練が必要であろう。

## ② 食品衛生

食品衛生の問題は卸売市場のみの問題ではなく、この国全体の問題でもある。だが、卸売市場では、これについて先駆的に取り組む必要がある。卸売市場で取扱っている製品は農薬含有量等も特別に使用していないとか、又はどの程度の農薬を使用しているか等について情報を消費者に知らせる必要がある。さらには、洗浄が徹底されているために含有量が無い等についての情報も必要であろう。

これらについて具体的に実施するためには市場入荷した青果物等について、定期的に抜取りをして、試験機関に依頼して検査してもらうことが必要であろう。先の規格の場合と同様卸売市場としての自主規則を定めていく方法が必要となつてこよう。

## (補) 野外市場

### ① 内 容

「野外市場」とは、1984年の初めの頃より、アスンシオン市が、市内の消費者に対して、食料品を安定的に供給することを目的として、市内の主要地域において、曜日を決めて開設する野外(路上において)の小売市場である。

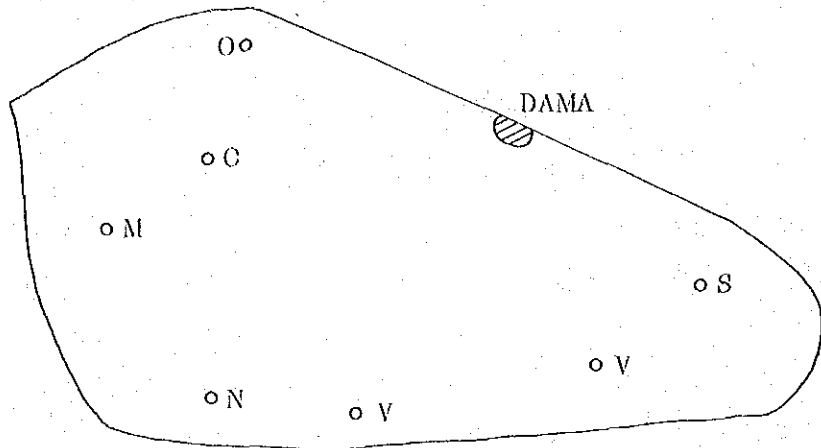
野外市場は、その開設者はアスンシオン市であつて、これに参加する小売業者は、アスンシオン市中央食品卸売市場内の小売業者(C棟)と第4公設小売市場内の小売業者の一部である。次の図にもみられるごとく市内7地域において、週1回開催されているが、小売業者は毎日各地域を移動する。

ロベス市場管理局長の説明によると、市内の小売商は、不当な利益を得ており、例えば1Kg50ガラニーで仕入れたトマトを消費者に200ガラニーで販売しており、暴利を得ている。これに対して野外市場では、小売利益を40%としており、1Kg70ガラニーで販売させている。これによって、消費者が得る利益はきわめて大きいとしている。

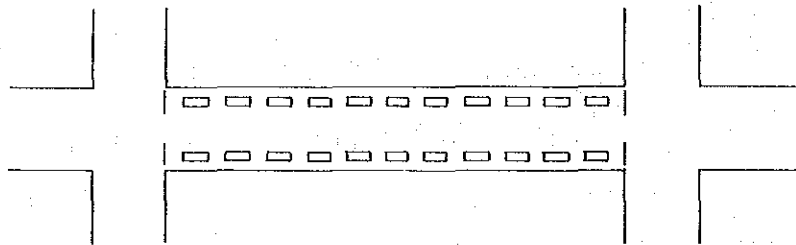
### ② 実 態

野外市場の開催時間は早朝6時から11時までとのことであつた。そこで調査団は専門家と共に1月15日(火)に現地視察をした。当日各店舗が開店したのは7時過ぎであつた。

当日開店した店舗は28店で、その内訳は野菜13店、果実6店、肉及び肉加工品2店、パン2店、卵2店、雑貨・日用品2店、薬草1店であつた。市当局の説明によると、常時出店者は30店位とのことであつたが、12月から2月までは売上げの少ない時期でもあつて、出店は少ないとのことであつた。野菜と果実等の食料品の場合、国内品を主体とし



④アシンシオン市内7ヶ所で開催されている。  
 それぞれの地区における開催曜日は決っている。



④路上を通行止にして、市場を開催する。  
 交通整理には警察官があたっている。

ており、輸入品は禁止とのことであつた。

野外市場全体における食料品の取扱量は12,000 Kg～25,000 Kgで、平均20,000 Kgとのことであつた。ロベス局長の説明によると、この取扱量は1ヶ月にして400,000～500,000 Kgであり、これは中央食品卸売市場の1日分に相当する数量であり、卸売市場側からみても、これは重要な位置を占めているとのことであつた。

各店舗での販売額は肉店が最高で、1日平均30万ガラニー位とのことであつた。平均では5～6万ガラニー位とのことであつた。

一方、これを利用する消費者は1日平均1,500人から2,000人で、1人平均の購入額は2,000～3,000ガラニーといわれている。野外市場の利用者は周辺1.5 Km位の範囲であるが、遠い人の場合には3～4 Kmの人も居るといわれている。利用者の中には自動車を利用して購入に来る者も居た。

### ③ 運 営

野外市場は市職員4名によって管理されており、市では各業者に対して「屋台」を提供し、これの使用料を徴収している。市当局は出店小売業者より、この「屋台」の使用料として、1日当たり500ガラニーを徴収している。そして、これらの小売業者に対して、市当局では、中央食品卸売市場からの食料品仕入の質を計るために、市場改善のために供与した「市場買出しバス」を運行している。出店している小売業者は中央食品卸売市場において、食料品を午前3時から5時頃までの間に仕入をし、これを野外市場を開催する地区まで、上記のバスで運搬する。野外市場は午前6時から11時頃までとなっている。なお、市場買出しバスは、野外市場と中央食品卸売市場の間を数回往復している。このバスの使用料は先の500ガラニーの中に含まれているとのことであつた。お、この業務が終了すると、バスは通常の業務に移行している。

なお、このバスを利用しないで貨物タクシーや自動車を持ってくる者もいる。

市当局では、この野外市場開催のために、職員4名を配置している。そこで、ロベス局長の試算によると、この野外市場の収支は次のごとくとなるとのことであつた。

野 外 市 場 の 収 支

(1) 収 入	16,000ガラニー	1店500ガラニー×32店
(2) 支 出	5,000ガラニー	機械、車輛の償却費
	3,000ガラニー	その他の諸経費
	8,000ガラニー	市役所の収入

### ④ 管 理

野外市場は、小売業者の不当な利益を排除し、公正な競争条件を導入する方策としては

じめられたものとしている。そのため、担当の市職員は、交通整理等野外市場の整理のほか、販売価格の調査を実施している。例えば、各店舗での販売価格を記録し、中央食品卸売市場での卸売価格との差を調べている。その方法は、卸売市場での価格情報をラジオや無線等により収集し、先の利巾が40%を越えた場合には、価格指導を行っている。

市当局の説明によると、不当な価格を表示して、販売したために、野外市場への参加を禁止された業者もあるとのことであった。

このほか、野外市場の質的向上を計るために、市では業者と一緒に海外視察等を実施しているとのことであった。今年2月5日にはブラジルのリオデジャネイロのクリコバを予定しているとのことであった。

なお、野外市場の開催により、地域の小売業者（スーパー、一般小売業者）は、開催日の販売量が激減し、大きな打撃を受けてはいるが、市当局の説明によると、週一回程度のため、あまり苦情はないとのことであった。

このほか、野外市場開催地区の選定にあたっては、市当局において、消費者や地域の小売構造を調査して選定したとのことであった。

## (2) 市場の運営・管理のための各種調査の実施方法、調査結果の利用

### 1) 物流調査

卸売市場の効率性、問題点を物流の視点からとらえるのが物流調査であるが、次の点に留意して進める必要がある。

#### ① 搬入調査

中央卸売市場はアスンシオン市の郊外にあるが、主産地とアスンシオン市を結ぶ交通の要点にあって、立地的には最も便利な地点となっている。

だが、市内需要量が増加していることもあって市場入荷量は確実に増加している。そこで、産地から卸売市場までの流通の実態を把握することは、輸送手段、輸送価格をとらえ、今後の産地対策、市場立地の資料とするものである。

#### ② 搬出調査

卸売市場の成長とともに、市場の入場者数は年々増加している。最近の傾向として、バス利用者になって、自動車による買出し者が増加しているようである。

だが、卸売市場は自動車利用者の増加もあって、混雑が激しくなっているようである。そのため、場内の流線にもかなり影響をあたえているようである。

搬入、搬出調査は卸売市場の物的な効率性、また、問題点を定期的にとらえるものであって、これによって、これからの市場対策の資料とするものである。

### 2) 消費動向調査

物流調査は卸売市場の将来性を利用者の直接行動からとらえるものであるが、消費者調査は、間接的に、市場動向を計測することをねらったものである。次の点に力点をおいて



調査する必要がある。

### ① 購買行動

アスンシオン市における小売流通面における最近の変化として、スーパーマーケットの成長があげられる。スーパー関係者によると現段階では、スーパーの市場占有率は20%位とのことであった。しかし、スーパー利用者は確実に増加しているとのことであった。このようなスーパーマーケットの成長は当然のことながら卸売市場に対して影響を及ぼすが、例えば、卸売業者の中にはスーパー向販売を専門に実施している業者もでている。購入調査、消費者の小売形態別（一般小売店、スーパーマーケット、小売市場内小売店、野外市場等）の利用状況と問題点をとらえるものである。

### ② 消費行動

食生活の違いは当然のことながら調理形態も異っている。パラグアイではわが国のごとく、野菜を生野菜として食べるよりも調味料として利用する例が多いようである。

このような食べ方、調理方法の違いは、生産方法、販売方法の違いともなる。そこで、消費行動では、第1に青果物の調理、利用形態を、第2にその数量、頻度等を把握するものである。

上記消費実態から需要量、需要予測のための情報を求め、今後の生産対策、流通対策の資料とするものである。

## (補) 卸売市場利用実態調査結果

### 1 調査の構成

#### (1) 調査の目的

アスンシオン市中央食品卸売市場は周知のごとく、市内の消費者に対しては良質の青果物を安定的に供給し、生産者に対しては、需要に応じて効率的に出荷させることを目的として、1981年に開場した。

その後卸売市場は順調に発展しているが、開設以来4年目を迎え、また、日本国からの技術協力期間も4年を迎え、最終年次に入ったこともあって、卸売市場の利用者に対して市場効果等について調査するものである。

#### (2) 調査の内容

調査は卸売市場内の卸売業者、スーパーマーケット経営者、産地生産者に対して、次の事項について調査した。

① 経営概要    ② 取引状況    ③ 市場効果

#### (3) 調査方法

調査は別紙調査票に基づいて、あらかじめスペイン語の調査票を作成し、専門家、調査団が聞き取り調査した。

なお、調査の対象者はパラグアイ人とし、日系人は調査しなかった。

## 1 卸売市場内卸売業者

### <経 営 概 要>

- Q 1 あなたのお店が取扱っている品目は何ですか？
- Q 2 あなたのお店が営業を始めたのは何年ですか？
- Q 3 お店で働らいている人は何名ですか？
- Q 4 現在の仕事をやる前は何をやっていましたか？
- Q 5 現在の仕事を引続いてやっていくつもりですか？

### <取 引 状 況>

- Q 6 通常取引をしている（委託されている）生産者（農家）は何名位ですか？
- Q 7 その生産者達はどの地域の人達ですか？
- Q 8 生産者の人達に対する代金の支払はどのようにしていますか？
- Q 9 お店に買いに来る又は販売する小売商（又は消費者）は何名位ですか？
- Q 10 販売する価格はどのようにして決めますか？

### <市 場 効 果>

- Q 11 卸売市場に入場してお店の販売額は増えましたか？
- Q 12 あなたに委託する生産者は増えましたか。また、お店に買いに来る人は増えましたか？
- Q 13 卸売市場に入ってどのような点が便利になりましたか？
- Q 14 市場について何か要望はありますか？

1. Comerciantes Mayoristas del Mercado de Abasto.

(Sobre las Generalidades del Manejo)

- Q1. ¿Con qué producto trabaja Ud.?
- Q2. ¿Desde qué año se ha iniciado su negocio?
- Q3. ¿Cuántas personas trabajan en su negocio?
- Q4. ¿Qué hacía Ud. antes de abrir este negocio?
- Q5. ¿Piensa seguir continuando con el trabajo actual?

(Sobre el Estado del negocio)

- Q6. ¿Cuántos aproximadamente son los productores con quienes habitualmente negocia (consigna)?
- Q7. ¿De qué zonas son esos productores?
- Q8. ¿Cómo se hace los pagos de los importes a los productores?
- Q9. ¿Cuántos aproximadamente son los minoristas (o consumidores) con quienes se efectúa la venta?
- Q10. ¿Cómo se determina los precios de las ventas?

(Sobre el efecto del Mercado de Abasto)

- Q11. ¿Ha aumentado la venta de su negocio luego de entrar en Mercado de Abasto?
- Q12. ¿Ha aumentado el número de productores que consigan sus productos y gentes que vienen a comprar en su negocio?
- Q13. ¿Qué ventajas le ofreció luego de entrar al Mercado de Abasto?
- Q14. ¿Tiene algún deseo sobre el Mercado de Abasto?

### 3 スーパーマーケット経営者

#### <経営概要>

- Q 1 あなたのお店の売上の中で、食品の売上は何%位ですか？
- Q 2 食品の売上の中で（野菜・果物）は何%位ですか？
- Q 3 営業を始めたのは何年ですか？
- Q 4 お店で働いている人は何名位ですか？
- Q 5 スーパーマーケットの経営方式をどこで学びましたか？

#### <取引状況>

- Q 6 野菜・果物の仕入れは全部卸売市場ですか。市場以外では何を仕入れてありますか？
- Q 7 野菜・果物の仕入れは毎日やっていますか。市場からはどなたが選びますか（卸売業者ですか、それともあなたのお店の人ですか）？
- Q 8 卸売市場から仕入れる場合、取引する卸売業者はいつも決っていますか？
- Q 9 消費者は何を基準として、野菜・果物を選んでいますか？  
価格，大きさ，鮮度，色つや等。
- Q 10 消費者が野菜を食べる量は増えていますか？

#### <市場効果>

- Q 11 卸売市場はスーパー経営にとって便利ですか？
- Q 12 メルカードはスーパーの競争相手と考えますか？
- Q 13 スーパー方式は、これからも伸びると思いますか？

3. Administradores de los Supermercados

(Sobre las Generalidades del Manejo)

- Q1. Dentro de todas las ventas de su negocio, ¿Cuánto % aproximadamente corresponden a ventas de comestibles?
- Q2. Dentro de las ventas de los comestibles, ¿Cuánto % aproximadamente corresponden a verduras y frutas?
- Q3. ¿En qué año se ha iniciado este negocio?
- Q4. ¿Cuántas personas aproximadamente trabaja an este negocio?
- Q5. ¿Dónde aprendió la técnica sobre el manejo del Supermercado?

(Sobre el Estado del Negocio)

- Q6. ¿Se efectúa las compras de verduras y frutas todas en Mercado de Abasto? ¿Qué mercaderías compra fuera del Mercado de Abasto?
- Q7. ¿Se hace todos los días las compras de verduras y frutas? ¿Quién lo transporta desde el Mercado de Abasto (Myorista o personal de su negocio)?
- Q8. Si compra en el Mercado de Abasto, ¿Está determinado al mayorista con quien negocia?
- Q9. ¿Cuáles son los criterios por lo cual los consumidores eligen las verduras y las frutas?
- Q10. ¿Está incrementando el volumen del consumo de las verduras por parte de los consumidores?

(Sobre el efecto del Mercado de Abasto)

- Q11. ¿Es ventajoso el Mercado Central de Abasto para la administración del Supermercado?
- Q12. ¿Piensa Ud. que el Mercado es rival del Supermercado?
- Q13. ¿Piensa Ud. que el sistema del Supermercado seguirá creciendo aún más en el futuro?

#### 4 生産者

##### <経営概要>

- Q 1 野菜作りを始めたのは何年頃ですか？
- Q 2 現在生産している品目はどのような品目ですか？
- Q 3 野菜以外に何か作っていますか？
- Q 4 従業員はいますか。何名位ですか。
- Q 5 今後も野菜作りを続けますか。

##### <取引状況>

- Q 6 卸売業者には毎日販売しますか。又、卸売業者は毎日取りに来ますか。
- Q 7 卸売市場にあなたが持っていったことはありますか？
- Q 8 販売価格はどのようにして決めていますか？
- Q 9 代金はどのようにして払われますか？
- Q 10 種子はどこから購入していますか？

##### <市場効果>

- Q 11 市場ができてから販売額は増加しましたか？
- Q 12 “ 野菜生産は便利になりましたか？
- Q 13 市場について、何か要望がありますか？

4. Productores

(Sobre Generalidades del Manejo)

Q1. ¿Desde qué año aproximadamente se ha iniciado el cultivo de hortalizas?

Q2. ¿Qué productos produce actualmente?

Q3. ¿Cultiva algo aparte de las hortalizas?

Q4. ¿Tiene empleados? ¿Cuántos aproximadamente son?

Q5. ¿Piensa continuar con el cultivo de hortalizas?

(Sobre el Estado del Negocio)

Q6. ¿Vende Ud. todos los días a los mayoristas o vienen los mayoristas a retirar diariamente?

Q7. ¿Ha llevado alguna vez al Mercado de Abasto?

Q8. ¿Cómo determina el precio de venta?

Q9. ¿En qué forma son pagados los importes?

Q10. ¿De dónde compra Ud. las semillas?

(Sobre el Efecto del Mercado de Abasto)

Q11. ¿Ha aumentado la venta luego de la creación del Mercado de Abasto?

Q12. ¿Ha aventajado la producción de hortalizas luego de la creación del Mercado de Abasto?

Q13. ¿Tiene algún deseo sobre el Mercado de Abasto?

## 2 調査結果の概要

### (1) 卸売業者（卸売市場内）

調査対象の卸売業者のうち、C棟の業者は小売業者であり、他の2社とは性質が異なっている。卸売業者2社は中堅クラスである。

#### 1) 取引状況

取引先生産者はそれぞれ10名程度であるが、生産者の所在地はかなり遠隔地となっている。代金支払は現金払いを原則としている。

また、販売小売業者数は各々30名前後となっている。価格決定方法はまちまちで、販売担当者の打合せにより、また、需給関係により、さらには仕入価格により決めている。

#### 2) 市場効果

小売業者を除き、卸売業者の場合には市場入場により取扱量は2倍近くになっている。そして生産者数、小売業者数も増加している。

市場の便利性としては、場所の広いこと、駐車場の広いこと、交通の便の良いこと等があげられている。

また、市場入場により、社会的信用が増し銀行融資が順調になっていること等をあげている。

### (2) スーパーマーケット経営者

スーパーマーケットの歴史は浅いが、調査対象の2社の場合も未だ10年程度にすぎない。だが、確実に成長しており、市内でのスーパーの市場占有率は20%位と云われている。

#### 1) 取引状況

青果物の売上げ割合は全取扱い品目の10%前後であり、それぞれ卸売市場を利用している。1社の場合は、このほか第4公設小売市場を利用している。

仕入は毎日仕入と週4回仕入があるが、仕入先が固定している業者と自由選択の業者がある。この違いは青果物に対する取組姿勢の違いであるが、毎日仕入を行っているスーパーの方が青果物売上げの割合は高くなっている。

スーパー利用者の購入基準としては、価格よりも、品質を重視する消費者が多いようであるスーパーがみた消費の動きとしては、青果物消費量は確実に増加するとの意見であった。

#### 2) 市場効果

卸売市場の便利性はあげられているが、具体的には、同一場所で品揃えが可能なこと、品質が良いこと等であった。

公設小売市場、それに野外市場についてはそれぞれ競合相手とみているようで、特に、



野外市場に対しては強く意識しているようである。

### (3) 生産者

対象生産者はイグアス地区であり、いわゆる遠隔地のパラグアイ人農家である。生産品目は野菜が主力であるが、このほか2農家では棉生産も実施している。3農家とも雇用の者が居る。

#### 1) 野菜販売

販売は、卸売業者引取りが1農家で、他は自から市場に出向いている。業者引取りの場合は代金回収期間が長くなっているが、持込みの場合はかなり早くになっている。

卸売業者に対する注文としては、引取りの場合の代金回収期間の問題と、持込みの場合の商品取扱い（卸売業者は輸入品等を優先して国内品の取扱姿勢が悪い等）に対するものであった。

#### 2) 市場効果

市場効果としては、業者引取りの場合には特に変わらないという意見であったが、持込み農家の場合には、市場に持込めば販売が可能であり便利とのことであった。

業者が引取りをやっている農家の場合には、同一地域に生産物が集中するために過剰現象がみられ、値崩れを越すとの意見もあった。

なお、建値については、日も浅いこともあって、ほとんど認識していなかった。

### 3 供与機材の活用状況について

プロジェクトへの供与済み機材の利用状況については、現地へ別表を持参し、専門家に利用状況につき記入してもらった。

機材については、概ね、有効に利用されており、管理状況に良好と判断された。特に大型冷蔵庫は、高価なものであるが、合同委員会の席上、ロベス市場管理局長は、『冷蔵庫については現在、玉葱、馬鈴薯、果実等の保存に利用されており、パラグアイ国における食品流通システムの1センターとしてとらえている。』

現在冷蔵庫には、20万Kgの玉葱が保存されているが、生産者が出荷調整の手段として使用しており、最近の例としては、生産者価格が22ガラニー/Kgのとき、冷蔵しておき、50ガラニー/Kgに上昇したときに、放出した。この様に、冷蔵による需給の調整が実際に行われており、冷蔵システムへの関係者の意識が高まった」と述べている。

卸売市場利用実態調査結果

1 生産者

調査項目	生産者 A	生産者 B	生産者 C (代理人)
<経営概要>	1976年	1969年	1981年
1. 野菜生産開始年次	1976年	1969年	1981年
2. 生産品目名	トマト, ピーマン, ニンジン, キャベツ, キュウリ, ハクサイ	トマト, ピーマン, スイカ, メロン, キャッサバ	玉葱, キャッサバ
3. 野菜以外の品目	棉		棉
4. 雇用者	2人(年間雇用)	1人(年間雇用) 必要に応じて3人	4~5人
5. 経営継続性	続けてゆきたい	続けてゆきたい	
<野菜販売>			
6. 販売状況	卸売業者が2日に1 回取りに来る	週2回	庭先で販売したり, 自分で市場で販売し たりしている
7. 市場持込	持込はない	自分で持ってゆく	自分でもっていく場 合もある。
8. 価格決定	卸売業者が月1回精 算する	卸売業者から報告が ある	
9. 代金回収	現金をもってくる	現金をもらってくる	現金精算
10. 種子購入	農協購入	卸売市場の種子業者 より	ブラジルから購入す る
<市場効果>			
11. 販売動向	特に変化はない	数量も金額も増加し た	市場持込が可能とな った
12. 野菜生産の便利性	過剰生産をすると価 格が下がり捨てるケ ースが増えた	卸売市場に持込めば 販売が可能であり便 利だ	
13. 市場への要望事項	過剰生産を処分しな いように価格安定を 要望	ブラジル等の輸入品 が入荷しており, こ れを優先的に販売し 地元品は後になって いる	規格(大中小)によ る価格差が大きすぎ る

卸売市場利用実態調査結果

2. 卸売業者（卸売市場内）

調査項目	卸売業者 A	卸売業者 B	(参5/5) 小売業者 (Cブロック)
<p>&lt;経営概要&gt;</p> <p>1. 取扱品目</p>	トマト, カボチャ, ピーマン, 玉葱, 赤 かぶ, サツマイモ, 果物	バナナが主力である	葉物野菜全般
2. 営業開始年次	1974年	1977年	小さい時からやっ ている
3. 従業員数	6名	7名	5名
4. 開業前の仕事	果実の販売	バナナ生産者	小さい時から野菜販 売
5. 経営の継続性	当然である	当然である	当然である
<p>&lt;取引状況&gt;</p> <p>6. 取引先生産者数</p>	10名位	産地仲買業者6名	10名位
7. 地域分布	ノエバイタリア, コ ロネルオビエド, カグアス	カラガタウ, サンタ ン, カウガス, コロ ネルオビエド, コン セプション	イタ, カピカタ(レ タスの仕入) ピーマン, ニンジン, トマト等は卸売業者
8. 代金支払	当日の現金払	産地で現金払	現金払
9. 販売小売業者数	大勢である。10箱 以上の購入者は25 ~30人位	主力取引先30名位	主力は25名位
10. 販売価格の決定	7人の担当者で販売 2時間前に決定する	需給関係で決定する	仕入価格を基本とす る
<p>&lt;市場効果&gt;</p> <p>11. 販売動向</p>	2倍に増加した	60%の増加	入場当初は増加した が最近では減少している
12. 取引先数の動向	2倍位になった	生産者, 得意先も増 加した	同じ位である
13. 市場の便利性	場所の広いこと, 駐 車場の広いこと, 銀 行融資が良いこと	熟成産の整備, 交通 の便が良い, 場所が 良い	
14. 市場への要望事項	特になし	特になし	第4公設小売市場の 方に最近物が流れて いる。ここでは小売 業者は不利だ

卸売市場利用実態調査結果

3. スーパーマーケット経営者

調査項目	スーパーA (3店組織)	スーパーB (6店組織)
<b>&lt;経営概要&gt;</b>		
1. 食品の売上割合	55~60%	70%
2. 青果物の売上割合	7%	10%
3. 営業開始年次	1973年	1979年
4. 従業者数	68名	70名
5. スーパー経営方式の 研修先	自からで、本・雑誌で学んだ。 ヴェノスアイレスに行って見た	経営学を専攻したので、自から 研究した。以前はホテル経営や 自動車部品等の経営をしていた
<b>&lt;取引状況&gt;</b>		
6. 青果物の仕入先	中央食品卸売市場 80% 第4公設小売市場 20%	ほとんど卸売市場から仕入る。 ただしリンゴは輸入業者から仕 入る
7. 仕入頻度配送方法	週4回仕入(年末発日は多くな る)自からで仕入れる	毎日、毎朝仕入れている
8. 取引先卸売業者	仕入先卸売業者は決っている (日本人卸売業者)	仕入先の卸売業者は決っていな い。価格と品質で決める
9. 消費者の購入基準	①色・つや ②価格	①品質 ②鮮度 ③価格
10. 消費者の動き	青果物の販売割合は以前は3 %であったが現在は7%に上昇 したので伸びていると思う	増加している。割合は5~6 %から10%になった。だが、 1人当たりが増えたか客数が増 加したか不明である
<b>&lt;市場効果&gt;</b>		
11. 卸売市場の便利性	同じ場所で種々の青果物の購入 が可能なので便利だ	全体的には便利である
12. 公設小売市場との関 係	近くに第2公設小売市場が改築 されるので競争相手になると思 う	第2,第4公設小売市場は伝統 的な競争相手である
13. スーパー経営の今後 の動向	アスンシオン市ではスーパー販 売実績は18~20%と思うが ヴェノスアイレスでは80%に もなっておりもっと伸びるだろう	確実に上昇する

機 材 利 用 状 況 調 査

年度	機 材 名	数 量	使用頻度			当該機材を導入しなかったとした場合、その影響	当該機材導入による技術移転における将来期待される効果	備 考
			A	B	C			
57	放送施設	1式	○			場内における円滑な連絡に支障 C/Pとの文書連絡が出来ない 青果物の衛生検査困難 事務効率、コンピューター能力に支障 場内の連絡に時間浪費 円滑なる市場物資の流れに支障 円滑なる人と物流に悪影響 専門家・C/Pの行動、業務が不可能になる 入荷量統計、標準建値の技術移転困難 事務処理に支障 青果物の病虫害検査困難 工事等の進捗状況、環境整備の把握、品質管理の梱包等の検討が出来ない 専門家C/Pの産地指導の困難 場内清掃の停滞 冷蔵庫の利用の経済効果の実証困難 市場管理統計研修等が不可能 特に乾期における清掃に不可欠 冷蔵庫の利用の経済効果の実証困難 中央市場と小売市場の情報システム研修困難 選果による規格設定の便益の確認が不可能 産地規格等の連絡業務に支障 根菜類の市場規格が出来ない 市場衛生維持に支障 衛生検査に係るC/P訓練に支障 コンピューター電源停電に対応困難 場内の整理、整頓困難	専門家、C/Pの円滑なる連絡 青果物のサンプルの保存・衛生検査 事務能率等の維持 連絡の効率化 物資の流れ維持 人と物流への利便に貢献 専門家・C/Pのプロジェクト業務の円滑な流れ 左記技術分野における指導の促進 事務処理の促進 青果物の品質向上 市場環境の向上 産地指導等の職員研修の促進 場内の衛生管理 管理知識の移転・経済効果の実証研修 統計処理の拡大実施 場内清掃業務の円滑化 管理知識の移転・経済効果の実証研修 左記の研修の実施 左記便益の確認が出来、規格の重要性の認識 左記連絡業務の促進 根菜類の規格化の実証 市場衛生の維持 左記訓練の実施習得 停電時におけるコンピューター操作可能 場内整理、整頓	
	タイプライター	2台	○					
	小型冷蔵庫	1	○					
	クーラー	2	○					
	スターター	5	○					
	鉄製運搬用具	15	○					
	市場専用バス	3	○					
	四輪駆動車	2	○					
	マイクロコンピューター	1	○					
	複写機	1	○					
	顕微鏡	1		○				
	カメラ	1		○				
	ポラロイドカメラ	1		○				
	マイクロバス	1	○					
	パキユーム車	1	○					
ごみ回収車	1	○						
58	冷蔵庫(1,000m <sup>3</sup> )	1	○					
	マイクロ・コンピューター	1	○					
59	散水車	1	○					
	冷蔵庫(500m <sup>3</sup> )	1式						
	ファクシミリ	3台	○					
	重量式選別機	1						
	ベルト式形状選別機	1						
	形状選別機	1						
	小型トラック	1						
	玉葱用ネット詰機	1						
	ごみ回収車	1						
	PHメーター	1						
	電子上皿天秤	1						
	秤	2						
	糖度計	1						
	強化硬質全自動試験管	100本						
	オートクレーブ	1						
ベトリ皿	50							
メスピベット	10							
円心分離器	1式							
菌培養器	1							
ディーゼル式発電機	1							
フォークリフト	1							



### III プロジェクト最終年の実施計画

#### 1 昭和60年業務実施計画

最終年の業務実施の内容については、第3回合同委員会議事録のとおりであるが、下記の点について留意して実施してゆくことが必要と思われる。

- (1) 残る約9ヶ月の協力期間内で、計画を実施してゆくには、9ヶ月間の実施計画表を作成し、計画的指導を行う必要がある。(計画表は、チームリーダーが作成中である)
- (2) プロジェクトの目標達成の為、必要なときは短期専門家を派遣し、現地を支援する体制をとる必要がある。
- (3) 機材供与の計画としては、動力自動包装機、洗浄機、その為必要な機材となっている。又、プロジェクト側の強い要望があった機材は、電算機及びトラックスケール、自家発電機(停電対策用)、電光掲示板などである。

電算機については、市場管理業務の包括的電算化の為の技術移転を促進したいというプラグアイ側の強い要望と考えられ、当該分野に於ける日本への高い評価等を考えると、供与機材の候補として検討することも有意義と考える。

トラックスケールの使用目的としては、農産物の入荷量が、入場門で必ずしも正確に把握されない事があり、もし、トラックスケールによる総入荷量の計測がなされた場合、標準値がより正確に算出される事が期待出来るためである。

自家発電機については、市場の活動が深夜に行われることから協力の開始前から強く要望されていた機材である。市場全体の停電対策を目的とした場合、発電容量が大きく金額的にも高価となるため、現在まで供与は実現していない。将来、プラグアイ側から小口の無償資金協力として要請が出される可能性がある。

#### 2 専門家派遣計画

	氏名	専門分野	派遣期間
長期	清野正善	チームリーダー 市場運営管理	1984.9.21 ~ 1985.12.9
	堤八洲雄	流通情報	1982.10.25 ~ 1985.12.9
	大倉理	技術協力	1982.6.11 ~ 1985.12.9
	安部新一	市場調査	1984.11.2 ~ 1985.12.9
短期	品質管理	1名	
	冷蔵庫管理	1名	
	コンピューターソフトウェア	1名	
	食品衛生	1名	
	出荷規格	1名	

### 3 機材供与計画

合同委員会議事録に記載した機材名としては下記のものである。

- (1) 動力自動包装機
- (2) 洗 浄 機
- (3) その他必要な機

その他パラグアイ側から強い要請のあった機材としては次の機材である。

- (1) 電 算 機                    1 台
- (2) トラックスケール        2 台
- (3) 自家発電機                1 台
- (4) 電光掲示板               1 台

### 4 カウンターパートの研修受入れ計画

コンピューターソフトウェア・市場管理    : 1 名

コンピューターシステム                    : 1 名

#### ○ 専門家別カウンターパート一覧表

60年1月現在20名が4名の長期専門家のカウンターパートとなって、技術の移転が行われている。

	カウンターパート氏名	清野正善 (市場運営)	堤八洲雄 (流通情報)	大倉 理 (技術協力)	安部新一 (市場調査)
1.	MIGUEL ANTONIO LOPEZ	○		○	
2.	GERARDO LOPEZ	○		○	
3.	LEON BENITEZA			○	○
4.	AMADA BEATRIZ GAUNA F.		○		
5.	JOSE MARIA PANGRAZIO		○		○
6.	GUSTAVO ESPINOLA			○	○
7.	TERESA BOLLA DE FRUTOS			○	
8.	ELIGIO RUIS DIAZ	○		○	
9.	CARLOS MARTINEZ				○
10.	TERESA DE JESUS DE SCARONE		○		○
11.	GILDA ROSA CENTURION		○		
12.	GUMERCINDO ROA	○	○	○	
13.	OSCAR RUBEN JARA C.		○		
14.	LUIS MICDONIO ANDINO G.			○	
15.	WILFRIDO AMARILLA	○			
16.	JORGE PRESENTADO BENITEZ		○		
17.	EMIGDIO BERISIMO CANTERO		○		
18.	GUSTAVO DIAZ		○		○
19.	JUAN MOLINAS	○			
20.	HERNAN SOSA V.	○	○	○	○



## 5 エバリュエーション調査団の派遣

エバリュエーション調査団については、昭和60年6月頃の派遣が適当と考えられる。農産物が生産から消費の段階で流通が公正で、かつ、合理的に行われる様、改善してゆくことは、今後の農業協力においても重要な技術協力分野と考えられる。

従って、エバリュエーションにおいては、今迄の経験を分析して、協力実施上の問題点を解明してゆくことにより、将来の流通分野への技術協力の方向が判明してゆくものと思われる。

## IV 資 料

- 1 閉長書簡（アスンシオン市長宛）
- 2 合同委員会議事録
- 3 市長表敬時相方代表者挨拶要旨
- 4 市場管理局長の合同委員会における主な発言

# 1 団 長 書 簡

拝 啓

アスンシオン市中央食品卸売市場改善計画への巡回指導調査団は、1985年1月8日から1月17日まで貴地を訪れ、過去3年に亘る協力活動の進捗状況を調査するとともに当面の実施上の技術的問題について、関係者と協議を行った。

当調査団は、ブラグアイ国側関係各位のプロジェクト実施上のご協力に対し、敬意を表するとともに、日本国側としても本協力活動の成功をめざし、引き続き努力をすべく、帰国後日本政府に進言する所存であります。

また、本調査団の活動に対する暖かい歓迎に感謝の意を表します。

1985年 1 月17日

アスンシオン市中央食品卸売市場

改善計画巡回指導調査団

団 長 橋 口 次 郎

## 序 文

アスンシオン市中央食品卸売市場への技術協力は、1980年に日本国政府が派遣した事前調査団へのパラグアイ国政府の技術協力要請により、その第一歩が踏み出され、1981年12月に日本国政府が派遣した実施協議調査団長とアスンシオン市長の間に署名された討議議事録により4年間の協力が開始された。

1982年には、3名の長期専門家の派遣、車輛類、コンピューター等の機材供与が行われ技術協力が軌道に乗った。又、1983年には、上記専門家に加え、短期専門家3名の派遣、カウンターパート3名の日本における技術研修と視察等が実施され、機材としては、大型冷蔵庫(1,000 $m^3$ )、マークシートコンピューター等を供与した。

さらに、1984年には、「市場運営・管理」専門家によるチーム・リーダーの交代が行われ、「市場調査」分野専門家を派遣し、ここに専門家4名の体制が整った。また、カウンターパート2名の日本国内研修を実施した。

このように、過去3年間の協力概要をふり返ってみると、技術移転は、概ね順調といえるが「中央食品卸売市場の運営管理に関する技術」の中で、市場運営の分野と品質管理の分野等については、暫定実施計画に比べ、やや遅れている。

1985年は、当初の協力期間の最終年でもあり、パラグアイ国側及び日本国側による一層のご努力により、プロジェクトの目標が達成されることを期待する。

1 今回の巡回指導でプロジェクトへの技術的勧告の要旨は下記のごとくである。

(1) 卸売市場の主要な機能は集荷機能と卸売機能であるが、その担い手は卸売業者である。すなわち、卸売業者の健全な育成が市場発展のための不可欠の条件である。そのため、卸売業者の指導が市場運営に占める比重はきわめて高いものと考えられる。具体的には次の点についての改善が必要であろう。

- ① 卸売業者が生産者から生産物を委託された場合の代金支払いの期間、支払い方法について。
- ② 卸売業者が小売業者に販売した場合の代金回収の期間、回収方法について。
- ③ このほか、卸売業者の健全な育成のための諸方策について

(2) 標準建値の算出については、建値計測のための技術的な問題については、ほぼ解決されているものと考えられるし、また、建値委員会も設立され標準建値も公表されている。

今後、この分野で必要なことは、卸売業者、小売業者等その利用者に対して、その意義を強調すること、さらに、その効果について調査することであろう。

このことにより、中央食品卸売市場は物流の中心としてのみならず、価格形成の面においてもその中心として位置づけられていくこととなる。

(3) 中央食品卸売市場と小売市場との間の情報システムについては、現在、卸売市場と第4公設小売市場の間で、標準建値の提供と小売価格の収集が実施されている。

現在、このシステムは市場管理当局において、利用されている段階であって、流通業者（小売業者等）が利用する段階に入っていない。

標準建値を公表して、小売業者や消費者に対して提供するには、この情報が関係者（卸売業者、小売業者）に与える影響が大きいこともあって、この点についてはさらに検討が必要であろう。少なくとも次の点について明らかにする必要がある。

- ① 標準建値を中央食品卸売市場以外の各公設小売市場の小売業者に提供する場合には、提供された情報の利害得失を明らかにする必要がある。
- ② 標準建値を公設小売市場において消費者に提供する場合には、市場内の小売業者への影響について明らかにする必要がある。
- (4) 品質管理の技術における規格問題については、規格委員会も設立され、規格作成の検討が始められている。この問題については規格を細分化することは公正な価格形成するうえで重要なことで、望ましいことではあるが、現実とあまりにもかけ離れた規格化は実現が困難であろう。規格化については、関係者が理解可能な範囲で段階的に進めることが必要であろう。

食品衛生面の問題については専門家派遣の遅れもあって遅れているが、衛生管理は市場において重要な課題であり、早急に検討する必要がある。

- (5) 生産・流通調査、消費者動向調査は、卸売市場の運営・管理においては、市場環境面の調査として位置づけられているものである。

これらの調査については、市場管理当局において、その意義を理解することが必要である。例えば、今後の需要見通しを計測することにより、市場流通量を計測し、さらに、市場規模の算出基準等の資料とするものである。

そこで、これらの調査についてはある程度定期的な実施する方向で進める必要であろう。

- (6) このほか、技術移転の具体的な実施にあたっては派遣専門家とカウンターパート間で研修カリキュラム等を作成して実施することが必要であろう。
  - ① 市場運営・管理のための全体計画、集荷計画、卸売計画の作成方法、及び物流調査、消費者動向調査の手法のカウンターパートへの技術移転については、相互関連的、系統的に実施される必要があるので、研修カリキュラムを作成して実施することが望ましい。
  - ② 専門家及びカウンターパート間で定期的な会合がもたれているようであるが、重要案件については確認のため議事録等のごとく内容の記録が必要であろう。

## 2. 1984年の技術協力の実績

### (1) 専門家の実績

	氏名	専門分野	派遣期間
長期	中村喜富	市場調査 兼リーダー	1982.6.11 ~ 1984.10.10
	大倉理	技術協力	1982.6.11 ~ 1985.12.9

	氏名	専門分野	派遣期間
長期	堤 八洲 雄	市場情報	1982.10.25 ~ 1985.12.9
	清野 正 善	市場運営管理 兼リーダー	1984.9.21 ~ 1985.12.9
	安部 新 一	市場調査	1984.11.2 ~ 1985.12.9
短期	村上 善 隆	品質管理	1984.1.30 ~ 1984.2.21
	大森 洋 昌	コンピューター ソフトウェア	1984.3.21 ~ 1984.4.20

(2) カウンターパート

1. MIGUEL ANTONIO LOPEZ
2. GERARDO LOPEZ
3. LEON BENITEZA
4. AMADA BEATRIZ GAUNA F.
5. JOSE MARIA PANGRAZIO
6. GUSTAVO ESPINOLA
7. TERESA BOLLA DE FRUTOS
8. ELIGIO RUIS DIAZ
9. CARLOS MARTINEZ
10. TERESA DE JESUS DE SCARONE
11. GILDA ROSA CENTURION
12. GUMERCINDO ROA
13. OSCAR RUBEN JARA C.
14. LUIS MICDONIO ANDINO G.
15. WILFRIDO AMARILLA
16. JORGE PRESENTADO BENITEZ
17. EMIGDIO BERISIMO CANTERO
18. GUSTAVO DIAZ
19. JUAN MOLINAS
20. HERNAN SOSA V.

(3) カウンターパートの日本受入れ研修

市場管理	Martinas V.C. Antonio	1984.8.10 ~ 1984.9.21
"	Gustavo Espinola Nunes	1984.8.10 ~ 1984.9.21

(4) 供与機材

faximile	3	sugar refractometer	1
classification machine	3	test tube	600
truck (Small Type)	1	autoclave	1
onion net packer	1	petri-dish	50
garbage truck	1	mespipet	10
P. H. meter	1	centrifuge machine	1

weighing machine 2 germiculture machine 1  
 diesel generator (for computer) 1  
 fork-lift 1

(5) 技術移転における主な実績

- ① 財務管理におけるコンピューターの応用及び研修の実施
- ② 標準建値委員会の設立(5月28日)と、標準建値公表の開始(7月2日)
- ③ ファクシミリの据付(10月26日)、及び中央卸売市場と第4公設小売市場の情報交換開始(12月)
- ④ アスンシオン中央卸売市場標準規格委員会の設立(5月)
- ⑤ 中央卸売市場への冷蔵庫据付け(1,000 $m^2$ )完了(8月)と操業開始。機械操作訓練の実施
- ⑥ 市場入荷量統計の作成(1983年までのもの)
- ⑦ 日別入荷量及び月別入荷量の公表
- ⑧ 消費者動向調査の実施(9月)

3. 1985年技術協力の実施

(1) 専門家の派遣

	氏名	専門分野	派遣期間
長期	清野正善	チームリーダー 市場運営管理	1984.9.21 ~ 1985.12.9
	梶八洲雄	流通情報	1982.10.25 ~ 1985.12.9
	大倉理	技術協力	1982.6.11 ~ 1985.12.9
	安部新一	市場調査	1984.11.2 ~ 1985.12.9
短期	品質管理	1名	
	冷蔵庫管理	1名	
	コンピューターソフトウェア	1名	
	食品衛生	1名	
	出荷規格	1名	

(2) カウンターパート

1. MIGUEL ANTONIO LOPEZ
2. GERARDO LOPEZ
3. LEON BENITEZA
4. AMADA BEATRIZ GAUNA F.
5. JOSE MARIA PANGRAZIO
6. GUSTAVO ESPINOLA
7. TERESA BOLLA DE FRUTOS
8. ELIGIO RUIS DIAZ

9. CARLOS MARTINEZ
10. TERESA DE JESUS DE SCARONE
11. GILDA ROSA CENTURION
12. GUMERCINDO ROA
13. OSCAR RUBEN JARA C.
14. LUIS MICDONIO ANDINO G.
15. WILFRIDO AMARILLA
16. JORGE PRESENTADO BENITEZ
17. EMIGDIO BERISIMO CANTERO
18. GUSTAVO DIAZ
19. JUAN MOLINAS
20. HERNAN SOSA V.

(3) 1985年業務実施計画 : 別紙参照

(4) 研修員の受入れ計画

品質管理 1名

コンピューター 2名



Asunción, 17 de Enero de 1985.

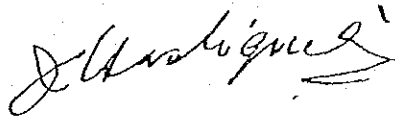
Señor  
Intendente Municipal de la ciudad de Asunción  
Gral. de Brig. PORFIRIO PEREIRA RUIZ DIAZ  
E. S. D.

RESUMEN DE LA DISCUSION ENTRE LA MISION DE ORIENTACION Y LAS AUTORIDADES CONCERNIENTES AL PROYECTO DE MEJORAMIENTO DEL MERCADO CENTRAL DE ABASTO DE LA CIUDAD DE ASUNCION.

La Misión de Orientación del Proyecto de Mejoramiento del Mercado Central de Abasto de la ciudad de Asunción, ha visitado al Paraguay durante el período de 8 al 17 de Enero de 1985, estudiando el estado de avance del Proyecto durante los últimos 3 años y se ha intercambiado opiniones con las autoridades paraguayas concernientes sobre los problemas técnicos de la ejecución de la misma.

La Misión al agradecer a cada autoridad paraguaya concerniente al Proyecto por sus colaboraciones para la ejecución, y llevaremos las recomendaciones necesarias al gobierno del Japón en el regreso para proseguir los esfuerzos para lograr el éxito del mencionado Proyecto.

Al manifestar nuestro sentido de agradecimiento por la afetuosa recepción que nos ha brindado para las actividades de la Misión, le saluda muy atentamente,



JIRO HASHIGUCHI  
Jefe de la Misión de Orientación del Proyecto de Mejoramiento del Mercado Central de Abasto.-

## INTRODUCCION

La cooperación técnica para el Mercado Central de Abasto de la ciudad de Asunción, fué tomado su primer paso por la solicitud de Cooperación técnica del gobierno paraguayo para la Misión de Contacto enviado por el gobierno del Japón en 1980, y fue iniciado su cooperación de 4 años por la Minuta de la Discusión (R/D) firmado entre el Sr. Intendente de la ciudad de Asunción y el Jefe de la Misión Japonesa de Estudios sobre Ejecución, enviado por el gobierno del Japón, en Diciembre de 1981.

En 1982 fueron enviados tres Expertos de largo plazo y fueron donados equipos, como computadoras y vehículos; de esta manera toma su marcha, la dicha cooperación.

En 1983 fue realizado el adiestramiento técnico y giras de 3 contrapartes en el Japón, envío de 3 Expertos de corto plazo sumado a los Expertos arriba mencionados y como equipos fueron donados la Cámara Frigorífica (1000 m3), Computadora (Mark Sheet) y otros.

Aún más en 1984 fue realizado el reemplazo del Jefe del Equipo de los Expertos de la "Administración y Operación del Mercado", y con el envío del Experto en el área de "Investigación del Mercado" ha completado la estructura del equipo con 4 Expertos. Además fue realizado el adiestramiento en Japón de 2 contrapartes.

De esta manera, volviendo la vista a la cooperación realizada en los 3 años anteriores, podría decirse que la transferencia técnica se ha efectuado casi satisfactoriamente, pero dentro de la "Técnica referente a la Administración y Operación del Mercado Central de Abasto" las áreas de control de calidad y Administración del Mercado se observa un pequeño retraso comparado con el Plan Provisorio de Ejecución.

El año 1985 es el último año del período de la Cooperación establecida, la cual por el esfuerzo aún mayor del lado paraguayo como del lado japonés, se espera el cumplimiento del objetivo del Proyecto.

I - El objetivo de la recomendación técnica de la Misión para el Proyecto consiste en lo siguiente:

(1) La función principal del Mercado de Abasto, consiste en la colección de carga y venta al por mayor, pero su blanco son los mayoristas; o sea que la formación sólida de los mayoristas es la condición indispensable para el desarrollo del Mercado. Por eso se puede considerar que el grado de importancia que abarca la orientación de los mayoristas para la operación del Mercado es relativamente elevada. Concretamente sería necesario el mejoramiento en los siguientes puntos:

- a) Sobre tiempo y forma de pago en el caso en que el productor ha consignado su producto al mayorista.
- b) Sobre el tiempo y forma de cobro en el caso en que el mayorista ha efectuado su venta al minorista.
- c) Además sobre todas las medidas para la formación sólida de los mayoristas.

(2) Referente al Cálculo del Precio Standard sobre los problemas técnicos para la estimación del Precio se puede considerar que se ha solucionado prácticamente, y además fue creado el Comité del Precio Standard del Mercado y se está siendo publicado los precios standard propiamente dicha. En adelante lo que será necesario en esta área es la enfatización de su significado a sus usuarios como mayoristas y minoristas y realizar estudios sobre sus efectos.

Por esto el Mercado Central de Abasto, no solamente será el centro de comercialización, sino también será considerado como centro en el aspecto de la estructura de los precios

(3) Sobre el sistema de información entre el Mercado de Abasto y Mercados Zonales, actualmente se está efectuando la transmisión del Precio Standard y recepción del Precio al por menor.

Actualmente este sistema está siendo utilizada solamente en la Administración del Mercado, no entrando aún en la etapa de ser utilizados por los comerciantes (como minoristas).

Para publicar el Precio Standard poniendo a disposición de los minoristas y consumidores, por la gran influencia que proporciona estas informaciones a los comerciantes pertinentes (mayoristas y minoristas); sobre este punto será necesario más estudios, por lo menos es necesario aclarar sobre los siguientes puntos:

a) En caso de disponer el Precio Standard al servicio de los minoristas de cada uno de los mercados zonales aparte del Mercado Central de Abasto, es necesario aclarar la ventaja y desventaja de la información ofrecida.

b) En caso de disponer el Precio Standard a los consumidores en los mercados zonales es necesario aclarar acerca de la influencia que proporciona a los minoristas del Mercado de Abasto, y sobre las ventajas y desventajas que proporciona la información a los consumidores y minoristas.

(4) Respecto al problema de normas en la Técnica de control de calidad, fue creada el Comité de Normalización y se ha iniciado el estudio para la elaboración de normas. Referente a este problema a pesar de que la sub-división de la norma es muy importante y deseado en la estructura del Precio justo, será muy dificultoso la realización de la normalización que esté muy lejos de la realizada. Sobre la normalización será necesario realizar en etapas dentro de la posibilidad de comprensión de las personas relacionadas.

Con respecto al problema del higiene de los productos alimenticios a pesar de que está atrasado también por la demora de la llegada del Experto, el control del higiene es un tema muy importante en el Mercado y es necesario su urgente estudio.

(5) La investigación de producción y comercialización, y la investigación de la tendencia de los consumidores en la Administración y operación del Mercado de Abasto es considerado como la investigación del aspecto ambiental del Mercado.

Sobre estas investigaciones es necesario ser comprendido su significado en la Administración del Mercado de Abasto; por ejemplo através de la estimación de la perspectiva de demanda en el futuro estimar el volumen de comercialización del Mercado de Abasto y aún más utilizar como material para modelo del cálculo de la escala de la infraestructura

del Mercado de Abasto, por eso sobre estas investigaciones será necesario llevar adelante orientando a realizar hasta cierto punto, periódicamente.

(6) Además sobre la realización más concreta de la transferencia técnica será necesario realizar elaborando programas de adiestramiento entre Expertos y Contrapartes-

a)Referente a la transferencia técnica a los contrapartes sobre el método de investigación de tendencia de los consumidores, investigación del flujo de las mercaderías y el método de elaboración del plan de venta al por mayor, plan de colección de cargas y plan general para la administración y operación del Mercado de Abasto, ya que se necesita ser ejecutado sistemáticamente y relacionando mutuamente, por eso es conveniente realizar elaborando un programa de adiestramiento.

b)A pesar de que parecen mantener reunión periódica entre Expertos y Contrapartes sobre los temas importantes para la comprobación será necesaria el registro del contenido como ser el acta de la reunión.

## II- Resultados de la Cooperación Técnica del año 1984

### (1) Envío Expertos

#### - Largo Plazo

Nombre	Especialidad	Periodo de envío
Yoshitomi Nakamura	(Investig. de Mercado)	1982,6-11 a 84, 10-10
Osamu Okura	(Cooperac. Técnica )	1982,6-11 a 85, 12-09
Yasuo Tsutsumi	(Información Comerc. )	1982,10-25 a 85,12-09
Masayoshi Seino	(Administr.de Mercado)	1984,9-21 a 85, 12-09
Shin-ichi Abe	(Investig.de Mercado )	1984,11-2 a 85, 12-09

#### - Corto Plazo

Yoshitaka Murakami	(Control de Calidad )	1984, 1-30 a 84, 2-21
Yoshihiro Omoji	(Computad.Software )	1984,3-21 a 84, 4-20

(2) Contrapartes

- 1.- MIGUEL ANTONIO LOPEZ ORTIZ
- 2.- GERARDO LOPEZ ZARATE
- 3.- LEON BENITEZ ALONSO
- 4.- AMADA BEATRIZ GAUNA FERREIRA
- 5.- JOSE MARIA PANGRAZIO
- 6.- GUSTAVO ADOLFO ESPINOLA
- 7.- TERESA BOLLA DE FRUTOS
- 8.- ELIGIO RUIZ DIAZ
- 9.- CARLOS MARTINEZ
- 10.- TERESITA DE SCARONE
- 11.- GILDA ROSA CENTURION
- 12.- GUMERCINDO ROA LEGUIZAMON
- 13.- OSCAR RUBEN JARA CUBILLA
- 14.- LUIS MIGDONIO ANDINO GIMENEZ
- 15.- WIFRIDO AMARILLA
- 16.- JORGE PRESENTADO BENITEZ
- 17.- EMIGDIO VERISIMO CANTERO
- 18.- GUSTAVO DIAZ

(3) Recepción de Becarios

Administr. Mercado : CARLOS MARTINEZ = 1984, 8-10 a 84, 9-21  
Administr. Mercado : GUSTAVO A. ESPINOLA = 1984, 8-10 a 84, 9-21

(4) Donación de Equipos

Faximile	3	Binoculador de azúcar	1
Clasificadora	3	Tubos provetas	600
Camioneta	1	Autoclave	1
Empacadora de cebolla	1	Petri-dish	50
Camión basurero	1	Mespipet	10
Medidor de PH	1	Máquina centrífuga	1
Weighing machine	2	Germiculture machine	1
Generador Diesel (para computadora)	1	Montacarga	1

(5) Principales Resultados de la transferencia técnica

- a) Aplicación de la computadora para la administración financiera; y la realización del adiestramiento.
- b) Creación del comité del precio standard del Mercado (28-V) e inicio de la publicación del PRECIO STANDARD (2-VII)
- c) Instalación del faximile(26-X ) y el inicio del intercambio de informaciones entre el Mercado Central de Abasto y Mercado N° 4
- d) Creación del Comité de Normalización Standard del Mercado Central de Abasto de la ciudad de Asunción (mayo)
- e) Término de la instalación de la Cámara Frigorífica(1000 m3) en el Mercado Central de Abasto (agosto) e inicio del funcionamiento del mismo. Ejecución de la práctica del manejo de los equipos
- f) Elaboración de la Estadística del Volúmen de la entrada de cargas del Mercado de Abasto (hasta el año 1983)
- g) Publicación del Volúmen diario y mensual de Entrada de Cargas
- h) Ejecución de la investigación de la tendencia de los consumidores (setiembre)

III - Ejecución de la Cooperación Técnica del año 1985

(1) Envío de Expertos

- Largo Plazo

<u>Nombre</u>	<u>Especialidad</u>	<u>Periodo de envío</u>
Masayoshi Seino	(Leader del Proyecto manejo y operac.del Merc.)	1984, 9-21 a 1985,12-9
Yasuo Tsutsumi	(Informac. Comercial )	1982,10-25 a 1985,12-9
Osamu Okura	(Cooperación Técnica )	1982, 6-11 a 1985,12-9
Shin-ichi Abe	(Investig.del Mercado)	1984,11- 2 a 1985,12-9

- Corto Plazo

1 persona	(Control de Calidad)
1 persona	(Adm. y manejo de Cámara Frigorífica)
1 persona	(Computadora Software)
1 persona	(Higiene de productos alimenticios)
1 persona	(Normas de expedición)

(2) Contrapartes

- 1.- MIGUEL ANTONIO LOPEZ
- 2.- GERARDO LOPEZ
- 3.- LEON BENITEZ A.
- 4.- AMADA BEATRIZ GAUNA F.
- 5.- JOSE MARIA PANGRAZIO
- 6.- GUSTAVO ESPINOLA
- 7.- TERESA BOLLA DE FRUTOS
- 8.- ELIGIO RUIZ DIAZ
- 9.- CARLOS MARTINEZ
- 10.- TERESITA DE SCARONE
- 11.- GILDA ROSA CENTURION
- 12.- GUMERCINDO ROA LEGUIZAMON
- 13.- OSCAR RUBEN JARA CUBILLA
- 14.- LUIS MIGDONIO ANDINO G.
- 15.- WILFRIDO AMARILLA
- 16.- JORGE PRESENTADO BENITEZ
- 17.- EMIGDIO VERISIMO CANTERO
- 18.- GUSTAVO DIAZ
- 19.- JUAN MOLINAS
- 20.- HERNAN SOSA V.

(3) Plan de Ejecución para el año 1985

(ver hojas anexas)

(4) Plan de recepción de becarios

Control de calidad      1 persona

Computadora Software    2 personas



## 2 第3回合同委員会議事録

第3回、日本・パラグアイ合同委員会は、1985年1月17日パラグアイ共和国アスンシオン市において開催された。

この委員会の機能は、アスンシオン市中央卸売市場改善計画のための技術協力に関する日本側調査団とパラグアイ共和国政府関係当局との討議議事録（RECORD OF DISCUSSIONS）第Ⅶ項4及び付表Ⅵに定められているとおり、このプロジェクトの基本計画に基づく年次計画の進捗状況、日本・パラグアイ両国政府によってとられた措置の検討及び、1985年事業計画を作成し、1年間の協力についての方針を決定し、必要な事項につき両国政府に勧告することである。

当合同委員会には議長であるアスンシオン市長 GENERAL DE BRIGADA PORFIRIO PEREIRA RUIZ DIAZ 氏、アスンシオン市中央卸売市場関係者、即ち、MIGUEL A. LOPEZ 市場管理局長他3名の職員、国際協力事業団派遣日本人専門家、即ち、清野正善リーダー他3名及び国際協力事業団アスンシオン支部職員が出席し、本プロジェクトに係る巡回指導調査団及び在パラグアイ日本大使館員がオブザーバーとして参加した。

その討議項目は以下のとおりである。

### I 1) 専門家派遣計画（短期）

品質管理、冷蔵庫管理、コンピューター・ソフトウェア、出荷規格及び食品衛生管理の各分野について 各1名

### 2) 研修員受入計画

品質管理 1名  
コンピューターソフトウェア 2名

### 3) 機材供与計画

動力用自動包装機  
洗 浄 機  
他当プロジェクト推進に必要な機材

### II 1985年事業計画

内容は別紙のとおりである。

<p>実行計画 ITEMS DE EJECUCION</p>	<p>1985年計画 PLAN PARA EL AÑO 1985</p>
<p>I. Instrucción y asesoramiento en cuanto a los siguientes ítems necesarios para la operación y administración del Mercado Central de Abasto.</p> <p>中央食品卸売市場の運営管理に必要な下記項目の指導助言</p> <p>1. Técnica referente a la operación y administración del Mercado Central.</p> <p>中央食品卸売市場の運営及び管理に関する技術</p> <p>Método de Elaboración de:</p> <p>a-Plan General.</p> <p>全体計画</p> <p>b-Plan de Colección de Cargas.</p> <p>集荷計画</p> <p>c-Plan de Venta al por mayor.</p> <p>卸売計画等の作成方法</p> <p>2-Técnica necesaria para la elaboración de los precios standard del Mercado.</p> <p>標準建値の算出技術</p>	<p>1. Elaboración de la orientación en relación a la elaboración del Plan de operación.</p> <p>運営計画作成に係る指針の作成</p> <p>a-Asesoramiento para la elaboración del Plan General.</p> <p>全体計画作成のため指導助言。</p> <p>Realizar transferencia técnica del procesamiento por computadora de presupuestos y liquidaciones de los datos administrativos que es muy importante para el manejo y operación del Mercado.</p> <p>市場運営管理の要である財務諸表(市場予算、決算諸表)のコンピューター処理の技術移転を行う</p> <p>b-Asesoramiento para el procedimiento de la elaboración del Plan de Colección de cargas.</p> <p>集荷計画作成方法の指導助言</p> <p>c-Asesoramiento para el procedimiento de la elaboración del plan de ventas al por mayor.</p> <p>卸売計画作成方法の指導助言</p> <p>2-Elaboración de la guía de Orientación referente al cálculo del Precio Standard del Mercado.</p> <p>標準建値算出に係る指針の作成</p> <p>-Minimización del tiempo para exposición del Precio Standard y estudio de la fórmula del cálculo.</p> <p>標準建値公示時間の短縮と算出方式の検討</p> <p>-Intensificar la difusión del significado e importancia del Precio Standard a los funcionarios de la administración del Mercado, mayoristas, y otros.</p> <p>標準建値作成公表の意義の関係業界への普及徹底</p>

プロジェクト実施計画 (1985年)  
PROGRAMA DE LA EJECUCION DEL PROYECTO DE 1985

<p>実行業務計画 ITEMS DE EJECUCION</p>	<p>1985年計画 PLAN PARA EL AÑO 1985</p>
<p>3-Organización del sistema de informaciones entre el Mercado Central del Abasto y los mercados zonales. 中央卸売市場と小売市場との情報システムとその整備</p> <p>4-Técnica requerida para el control de calidad. 品質管理のための技術</p>	<p>-Asesoramiento referente al mantenimiento de la Microcomputadora. マイクロコンピュータの維持管理に関する指導助言</p> <p>3-Elaboración de la guía de Orientación referente al uso de Sistema de informaciones. 情報システムの運用に係る指針の作成</p> <p>-Establecimiento del sistema de información del Mercado de Abasto a los Mercados zonales através del Faximil. ファクシミリによる卸売市場より小売市場への設立</p> <p>-Ampliación del Volúmen de transmisión del "Informe diario" de los Mercados zonales al Mercado de Abasto através del Faximil. ファクシミリによる小売市場より卸売市場への日報送信量の拡大</p> <p>-Disposición de la información del Mercado a los medios de Prensa. マスコミへの市況提供</p> <p>-Edición de las publicaciones periódicas (Informe diario, descenio, mensual y anual). 定期刊行物(日報、旬報、月報)の発行</p> <p>-Colección y aprovechamiento de las Informaciones del Mercado Externó. 外国市況の収集と利用</p> <p>-Asesoramiento referente al mantenimiento del Faximilx. ファクシミリの維持管理に関する指導</p> <p>4-Elaboración de orientación de la técnica del control de calidad. 品質管理技術に係る指針の作成</p> <p>1) Elaboración de normas de Asunción sobre los 30 principales productos. 主要30品目についてアスンション規格の作成</p> <p>(1) Técnica de clasificación y técnica de selección de frutas. 格付技術、選果技術。</p> <p>(2) Técnica de embalaje(normas para cajones y bolsas). 包装技術(木箱、袋の規格)</p> <p>2) Técnica relacionada a la cámara frigorífica. 冷蔵庫に関する技術</p>

プロジェクト実施計画 (1985年)  
PROGRAMA DE LA EJECUCION DEL PROYECTO DE 1985

<p>実行計画 ITEMS DE EJECUCION</p>	<p>1985年計画 PLAN PARA EL AÑO 1985</p>
<p>II. Instrucción y asesoramiento en cuanto a las siguientes investigaciones necesarias para la operación del Mercado Central de Abasto y la técnica de los análisis correspondientes.</p> <p>中央食品卸売市場の運営に必要な下記の調査、解析技術の指導助言</p> <p>1- Investigaciones del flujo de mercaderías relacionadas a la producción y comercialización. 生産流通に関する物流調査</p> <p>2- Investigaciones de la tendencia de los consumidores. 消費者動向調査</p>	<p>1. Informe y propuesta a la organización pertinente sobre los resultados obtenidos mencionados. 下記結果に係る関係機関への報告、提言</p> <p>1) Estudio relativo con la estadística del volumen de la producción comparativa de los años consecutivos del volumen de entrada de cargas del Mercado. 市場入荷量の年次別比較、生産量統計との関連検討</p> <p>2) Las investigaciones sobre el volumen de la entrada y expedición diaria de cargas y existencia restante, será estudiado al principio. 当日入荷量、出荷量、売り残り在庫量の検討</p> <p>2- Informe y propuesta para la organización pertinente sobre los resultados obtenidos mencionados. 下記結果に係る関係機関への報告、提言</p> <p>Estudio de la actitud de los consumidores. 消費者動向調査</p> <p>1) Análisis y estudio sobre los resultados de la investigación. 調査結果の解析検討</p> <p>2) Realización de investigaciones complementarias. 補足調査の実施の検討</p> <p>3) Estudio global. 総合的検討</p>

DOCUMENTO DE DISCUSION DE LA 3º REUNION DEL  
COMITE CONJUNTO PARAGUAYO -- JAPONES.

La 3º reunión del Comité Conjunto Paraguayo - Japonés tuvo su apertura en la ciudad de Asunción, en el día 17 de Enero de 1985.

La función de este Comité, como está establecido en el Cap. VII y anexo VI del Convenio (R/D) firmado entre la Misión Japonesa y la Institución competente del Gobierno Paraguayo para la cooperación técnica del Proyecto de Mejoramiento del Mercado Central de Abasto de la ciudad de Asunción; consiste en la consideración de las medidas tomadas por ambos países (Paraguay y Japón), estado de avance del Proyecto basado en el Plan Maestro, elaboración del Plan de Ejecución para el año 1985, definiendo la medida a ser tomada para la cooperación del año y proporcionar recomendaciones a ambos gobiernos sobre los puntos necesarios.

En esta reunión del Comité Conjunto han asistido: el Sr. Intendente de la ciudad de Asunción Gral. de Brig. Porfirio Pereira Ruiz Díaz quien es el Presidente del Comité, Director de la Dirección de Abastecimiento de la Municipalidad de Asunción Ing. Miguel A. López y otros tres funcionarios, Jefe del Equipo de los Expertos Japoneses Sr. Masayoshi Seino y otros tres Expertos, y un funcionario de la Agencia de Cooperación Internacional del Japón de la oficina de Asunción; junto con la participación como Observador de la Misión de Orientación de dicho Proyecto y un funcionario de la Embajada Japonesa.

Sus ítems de discusión fueron los siguientes:

I- 1) Plan de envío de Expertos Japoneses (Corto Plazo).

Un Experto para cada área de:

- Control de Calidad.
- Manejo de la Cámara Frigorífica.
- Computadora Software.
- Normas de Expedición.
- Control de Higiene de los Productos Alimenticios.

*[Handwritten signature]*

*M.S.*

2) Plan de recepción de becarios.

- Control de Calidad. -Una persona.
- Computadora Software -Dos personas.

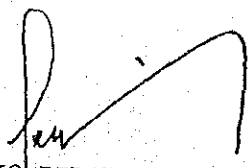
3) Plan de donación de Equipos.

- Máquina Empacadora automática.
- Máquina lavadora.
- Otros equipos necesarios para el desarrollo del Proyecto.

II- Plan de ejecución para el año 1985.


(Ver hojas anexas).

Asunción, 17 de Enero de 1985.



GRAL. DE BRIG. PORFIRIO PEREIRA RUIZ DIAZ

Intendente Municipal  
de la ciudad de Asunción.



MASAYOSHI SEINO

Leader del Proyecto  
de Mejoramiento del  
Mercado de Abasto.

### 3 市長表敬時相方代表者挨拶要旨

#### (1) 市長挨拶要旨

(於：市庁舎 60年1月9日(水))

- ア. 今迄の協力に心から感謝している。協力期間については、延長を要請する。
- イ. 最近、スーパーマーケットが出来つつあるが、アスンシオン市としては、公設の小売市場の近代化をめざしており、この分野についても協力をお願いしたい。
- ウ. 最近、アスンシオン市としては、野外市場を市の7ヶ所で始めた。公設小売市場を、より発展させてゆきたい。
- エ. 第4公設小売市場が肥大化しており、今後整理、近代化をはかってゆきたい。

#### (2) 橋口団長挨拶要旨

- ア. 協力期間については、4年間で終了すると考えている。
- イ. 協力期間の延長については、言及する立場ではない。これについては、日本側関係省庁が政策的に結論を出すと考える。

### 4 市場管理局長 Miguel A. Lopez 氏の合同委員会に於ける主な発言

於：日パ合同打合せ 60年1月10日(木)

- (1) 中央卸売市場への日本の協力は、有効であり、アスンシオン市民に良く知られている。これは、中央卸売市場が市民の生活に直接結び付いていることによるものである。
- (2) 市場運営については、いろいろ問題があったが、解決されつつある。
- (3) 冷蔵庫については、現在、玉葱、馬鈴薯、果実等の保存に利用されており、日本から供与された冷蔵庫については、パラグアイ国における食品流通システムの1センターとしてとられて行きたい。  
現在、冷蔵庫には、20万Kgの玉葱が保存されているが、生産者が出荷調整の手段として使用しており、最近の例としては、生産者価格が22ガラニー/Kgのとき、冷蔵しておき、50ガラニー/Kgに上昇したときに、放出した。この様に、冷蔵による需給の調整が実際に行われており、冷蔵システムへの関係者の意識が高まった。
- (4) 今後、かんきつ類の貯蔵にも冷蔵庫は有効に機能するであろう。
- (5) 最終年次については、食品の品質管理、選果選別の分野について知識を高め、改善に努力致したく、宣しく御協力をお願いしたい。

JICA



LIE